

受檢  
必携  
萬國歷史問答



平井金三校閱 平井廣五郎譯述

# 斯因 敦氏 大文典講義

全一冊 正價金四十五錢 郵税金六錢

方今文學ノ騷々乎トノ隆且ツ盛ナルニ當リテヤ誰カ又英語ノ必要ヲ感シ之ヲ攻メサル者アラシク而ノ之ヲ學フ者必ス先ツ其徑ニ依ラサル可ラス先ツ文典ヲ講セサル可ラズ獨リ恨ム文典ノ雷洩トニ乏シカラスノ其善ヲ盡シ完テ得タル者未ダ一ツタモ有ラサルヲ幸ニス井ノトシ氏ノ一書アルノミ又々恨ム其譯書己ニ幾種ヲ以テ數フト雖ヒ未ダ曾テ正テ得善極メタルモノアルヲ知ラス幸ニシテ獨リ本書ノアルノミ本書ノ譯ハ彼ノ有名ナル平井廣五郎君ノ手ニ成レル者ニシテ平井金三君之カ校閱ノ勞ヲ取ラレ文學士德永君又々幾分ノ力ヲ添ヘラレタル所アリ其誤謬ナキ其完備ナル弊舖固ヨリ敢テ多言ヲ費サハルナリ今ヤ弊舖之レヲ世ニ公ニスルノ榮ヲ見ルヲ得タリ請フ江湖ノ諸彦一讀シテ以テ弊舖ノ欺カサルヲ知リ賜ヘ

平井廣五郎譯述

## 訂正 彌爾敦論

全一冊 正價金廿五錢 郵税金四錢

該書ハ英國ノ文章家「マコーレー」氏ガ同國ノ詩家タリ民權家タリシ彌爾敦氏ヲ評論セラレタル者ニシテ今般平井先生ニ請ヒテ誠譯シ弊舖幸ニ出版ノ榮ヲ負フヲ得タリ請フ江湖ノ諸彦購讀シテ以テ其頁書タルヲ知リ賜ヘ

高田清洲譯述

## 訂正 二版 印度開國記事

全一冊 賣價金廿錢 郵税金四錢

右ハマコーレー氏ノ原著クライフ傳ヲ譯述シタルモノニシテ双語半句モ之ヲ荷モセサルニ至テハ記者ノ注意セラレタル所ニシテ特ニ地名人名其他所々ニ注釋ヲ加ヘ又印度莫臥帝家ノ附録ヲ添ヘラレタルハ從來ノ譯書ト異ニスル所ナリ原著ヲ繕ク者ノ爲メニモ亦々只ダ此書ヲ繕ク者ノ爲メニモニツナガラ便益ナル頁書ナリ

特20  
154

高等尋常中學校師範學校 受驗用  
特別認可學校其他諸學校 參考書

# 受檢 必携 萬國歷史問答

中正朔校閱  
尾關學軒編纂







受檢必 萬國歷史問答

序例

本書編纂ノ目的ハ高等尋常中學校師範學校商業學校及ヒコレニ準セル各官私公立學校受檢ノタメニ參考用書トナリテ渺茫タル史海ヲ點スノ點臺タルニアリ

本書編纂ニツキ引用書ハふりーまん氏萬國史すう井んとん氏萬國史ふいつせる氏萬國史及せうじる氏羅馬史すみつす氏希臘史ぎぞー氏文明史等トス

本編編纂ノ時日短カク爲メニ群書涉獵シテ熟思細慮スル能ハス或ハ不充分且ツ誤謬ノ點ナキヲ保セス編者ノ遺憾ハ實ニ茲ニアリ讀者諸君願クハ正誤ノ勞ヲ執ラレノイテ

編識者





受檢 必携 万国歴史問答

目次

上古史之部

- 歴史ノ定義ヲ示セ 一
- 國民ノ定義ヲ示セ 一
- 萬國歴史ノ目的トスル所ヲ問フ 一
- 文明ニ最大關係アル人種ヲ問フ 一
- 自哲人種ノ區別及其特長ヲ記セ 二
- 世界文明ノ起原及進路ヲ畧記セヨ 二
- 歴史ノ時期ヲ大別シテ三トス其期限名稱ハ如何 二
- 東洋古代ノ主要ナル文明國ヲ列擧セヨ 三
- 世界中國史ノ最古ナル國民ヲ問フ 三
- 埃及ノ地理人種ヲ問フ 三



埃及歴史ヲ容易ニ知リ得ルニ至リシ原因ヲ示セ 三

びらみつとノ建設ハ何世紀ナルカ 四

埃及全盛ノ時期及其景況ヲ問フ 四

埃及ノ階級制度及其結果ハ如何 四

紙製造ノ起原ヲ擧ケヨ 五

前ばびるみや王國ノ地理ヲ概説セヨ 五

前ばびるみや王國天文學進步セシ所以ヲ問フ 五

前ばびるみや王國人民ノ氣風及文字ヲ問フ 五

あつしりや略史ヲ述ヘヨ 六

後ばびるみや再興者ハ誰レゾ 六

ねぶかどねざあ王在位國後ばびるにや地ノ景況如何 六

ばびるん府ノ景況ヲ問フ 七

後ばびるみやハ誰ノタメ如何ニシテ滅亡サレシカ 七

猶太ノ建國及政体ヲ示セ 七

猶太ノ宗教ヲ問フ 八

ふいおしあ古代商業ノ景況ヲ略説セヨ 八

ふいおしあ國ノ殖民地ヲ擧ケヨ 九

ふいおしあ邦制ヲ問フ 九

あるはべつとノ發明ハ誰レソ 九

印度ハ歐洲諸國ト人種ノ始元ヲ同フシ其文明ノ性質ヲ異ニスル所  
以ヲ問フ 九

歐羅巴人ニシテ始メテ印度ヲ知リシハ誰レカ 十

印度ノ階級制度ヲ問フ 十

佛教ノ由來ヲ略記セヨ 十

さいらす王ノ偉業ヲ略記セヨ 十

古代歐洲ニ於テ文明ノ濫觴ト稱スヘキハ何國民ソヤ 十



希臘古代ノ住民如何 十一

希臘種族中ノ主要ナル二種族及其氣風ヲ問フ 十二

古代希臘人カ文明ノ祖タリシ原因ヲ問フ 十二

古代希臘盛時ノ版圖ヲ記セ 十三

古代希臘ノ狀況ヲ述ヘヨ 十三

古代希臘ノ末路ノ情況ヲ問フ 十三

すばるたノ階級制度ヲ問フ 十五

らいかるがすノ法制ヲ略記セヨ 十五

雅典政治ノ沿革ヲ説ケ 十六

波斯ト希臘トノ間ニ起リタル重モナル戰爭ハ幾度ニシテ何レノ地ニ於テセシカ 十七

波斯戰爭ノ原因及結果ヲ問フ 十七

でろす同盟トハ如何 十七

雅典隆盛ハ誰レノ力ニヨルカソノ事業ヲ記セ 十八

雅典急滅ノ所以ヲ問フ 十八

べらほんねさす戰爭ノ原因及景況ヲ略説セヨ 十八

しぶす戰爭及戦後希臘ノ景況ヲ問フ 十九

ませどん國ノ地理ト人種トヲ問フ 十九

ひりつぶ王ノ秘謀及是ヲ豫知セシハ誰レゾ 二十

聖役ヲ略記セヨ 二十

歴山大王ノ事蹟ヲ問フ 二十一

希臘衰頹ノ原因ヲ列舉セヨ 二十一

希臘ノ政体ヲ問フ 二十一

希臘宗教及祀祭ヲ問フ 二十二

希臘哲學ノ發達ヲ問フ 二十二

希臘文學及美術ノ發達如何 二十三



大古ニアリテ歐洲ノ政治法律ノ模範ヲ遣シタルハ何國民ナリシヤ 二十三

羅馬ノ地理及人種ヲ問フ 二十三

後日羅馬ノ大國ヲナシタル人種ヲ學ケヨ 二十三

羅馬帝國創設ハ誰ニシテ且政体ノ變遷ヲ述ヘヨ 二十四

羅馬共和時代最初ノ執政官ハ誰レゾ 二十五

共和時代羅馬ノ版圖ヲ示セ 二十五

共和時代羅馬ノ外領ニ對スル法ヲ問フ 二十五

羅馬共和創建ノ際平民黨羅馬ヲ去ラントシタル原因及結果ヲ略述セヨ 二十五

ピヨにつく戦争ノ原因 二十六

ピヨにつく戦争ノ概略ヲ説ケ且對軍ノ大將有名ナルモノヲ舉ケヨ 二十六

羅馬共和時代末路ノ景況ヲ問フ 二十七

シーザーノ事業ヲ問フ 二十七

羅馬帝國ノ成立及當時ノ版圖ヲ示セ 二十八

羅馬文學ノ最盛時代ハ誰レノ時ゾ 二十九

耶穌基督ハ何帝ノ時誕生セシヤ 二十九

耶穌教傳播ヲ略述セヨ 二十九

耶穌教傳播ノ餘響ヲ問フ 三十

羅馬衰微ノ原因ヲ舉ケヨ 三十

近世歐洲諸國制度國狀ノ相似タル所以ヲ問フ 三十

中世史之部

新人種トハ何種族ヲ云フカ 三十一

中世史ハ何人種ノ事蹟ヲ記セルモノゾ 三十一

羅馬帝國ノ東西ニ分離セシ時及ソノ王名ヲ問フ 三十一

羅馬ノ兵權ニ寸族ニ歸セシ原因ヲ問フ 三十二

西羅馬滅絶ノ所以ヲ示セ 三十二

東羅馬ノ狀況ヲ略説セヨ 三十二



じやすちふあん帝治世中主要ナル事件ヲ問フ

三十三

しやーれまん帝ノ目的及事業ヲ記セ

三十三

しやーれまん帝歿後西羅馬ノ景況ヲ示セ

三十四

こんすたんちのふるノ没落ヲ問フ

三十四

まほめつと教傳播ノ狀況ヲ示セ

三十四

ちやーるすまーてるノ事業ヲ問フ

三十五

英吉利ノ起原ヲ問フ

三十五

現時ノ英吉利ハ何人種ニ属スルカ

三十六

さくそん王統ノ基ヲ開キシハ誰レソ

三十六

英國まぐなちやたー發布ノ時王名及其所以ヲ示セ

三十七

薔薇戦争ノ原因及結果ヲ概示セヨ

三十七

日耳曼國ノ起原及變遷ヲ問フ

三十八

百年戦争ノ原因及結果ヲ略述セヨ

三十九

百年戦争ノ中大戦ノ地ヲ舉ケヨ

三十九

百年戦争ノ佛國ニ及ボセシ影響ヲ問フ

四十

らむばるぢ同盟トハ何ソヤ

四十

封建制度ノ起原ヲ略述セヨ

四十一

封建制度ノ結果ハ如何

四十一

封建制度ヲ漸次顛覆セシ所ノ勢力ヲ舉ケヨ

四十一

義騎制度トハ何ソヤ

四十二

十字軍ノ目的及景況ヲ略記セヨ

四十二

十字軍ノ歐洲ニ與ヘタル影響如何

四十四

びーとるべるめつとトハ何人ソ

四十四

暗黒時代トハ何世紀ヨリ何世紀マテヲ云フカ

四十五

中古文明ノ退歩セシ原因ヲ問フ

四十五

中古學問ノ廢滅セシ所以ヲ示セ

四十五



中古時代書籍ハ何語ヲ以テ記セルカ

四十六

中古大學ノ有名ナルモノヲ擧ケヨ

四十六

羅馬法王權力消長ヲ列記セヨ

四十六

第十五世紀トハ何年ヨリ何年マテニシテ何年間ナルカ

四十八

第十五世紀ニ學術再興ノ期アリト云フ其概況如何

四十八

近世史之部

十六世紀ノ間ニ於テ生シタ重ナル事件ヲ記セヨ

四十八

近世々界ノ有様ハ如何

四十九

亞米利加發見及ヒおーすたらりや發見セシハ誰ナルヤ又誰ノ時代

五十

ニアルヤ

五十

亞米利加發見ノ直接ノ結果如何

五十

亞米利加發見ノ爲メニ大和ヲ博シタ國ハ何國ナルヤ

五十

此發見中佛蘭西史上ノ要件ハ如何ナルモノナルヤ

五十一

十六世紀ノ初メニ於テ伊太利史ハ如何

五十一

當時文學社會ニ名ヲ著ハシタル人ハ誰ナルヤ

五十一

當時歴史ノ要部ヲ占メタル高僧ハ誰レソ

五十一

以太利ニ於テ技術文學ノ極盛ニ達シタルハ何法王ノ時カ

五十一

オムルちんるーさーハ如何ナル人ソ

五十二

近世ニ於テ舊來ノ面目ヲ一新スルニ最モ力アルモノハ何カ

五十二

火藥發明ノ及ボシタル影響ヲ問フ

五十二

印刷術ノ發明ハ何年ナルヤ又何人ノ手ニ出デシヤ

五十二

印刷術ノ及ボシタル影響ヲ問フ

五十二

顯理ノ航海ノ目的ハ如何

五十三

「なん」海角ヲ好望海角ト名タル原因ハ如何

五十三

東洋商業權ノ葡萄牙人ノ掌握ニ販シタル原因

五十三

伊太利戰爭ノ起元ハ如何

五十三



此戦争ノ目的ハ如何

五十三

此戦争ノ結果ハ如何

五十三

路易王ノ終ニ連合諸國ト和議ヲ結ブニ至リシ原因

五十四

查祿斯第五世時代ヲ分チテ二トナス其名ヲ問フ

五十四

查祿スト弗らんしとノ争ノ原因ハ何ナルヤ又其結果如何

五十四

英王ノ弗らんしとニ抵抗スルノ準備ノ原因

五十四

ふらんしと王ノ敗後如何

五十四

佛王ノ軍日帝ノ兵ト戦ヒシハ何年且ツ何レノ地ナリシヤ

五十五

其争戦ノ結果如何

五十五

「弗らんしと」飯國後如何

五十五

夫人和議ノ起元且ツ原因

五十五

ちやるすノ欲スル所ハ何ソ

五十五

查祿斯帝ノ智ゆふすヲ襲ヒシ目的ハ如何

五十六

查祿斯ノ營ム所ハ如何

五十六

查祿斯失敗ノ原因

五十六

第十世紀ニ於テ最モ大ナル事件ハ如何

五十六

日耳曼全國ノ騷擾ヲ來タセシ原因

五十六

如何ナル大帝カ日耳曼ノ騷擾ヲ鎮定シ法王ノ權力ヲ回復セント企テシヤ五十七

宗教改革ノ起元及結果如何

五十七

新教ノ流布シタル諸國ハ如何

五十七

舊教ヲ固守セシハ何人種ナルヤ

五十七

「ぷろてすたんと」ノ名稱ノ起元ヲ記セ

五十八

新教ニ信仰ノ自由ヲ與ヘタル原因且ツ何年ナルヤ

五十八

新教ニ容忍ヲ與ヘタル原因ハ如何

五十八

查祿スハ其後如何ナリシヤ

五十八

西佛多年ノ戦争ヲ閉チシ原因

五十八



三十年戦争ノ起元ヲ問フ 五十九

三十年戦争ノ中心ハ何ノ國ナルヤ 五十九

此戦争ノ原因ヲ問フ 五十九

慕ヘミヤ戦争ノ原因如何 六十

ばヘミヤ戦争ノ後ふへるぢなんどハ如何 六十

ばヘミヤ戦争ノ結果如何 六十

うゑすとふありやノ條約ノ顛末如何 六十

「峨とたばと」ノ人トナリヲ問フ 六十

戦ノ勝者ナル底りぬヲ破リシハ何地ニ於テ又誰カ破リシカ 六十

「峨とたばと」最後ノ激烈ナル戦争ハ何地ニ起リシヤ又其原因ヲ問フ 六十

佛蘭西ハ何故ニ此戦争ニ關セシカ 六十

千六百四十八年ニ在テ歐洲歴史上ニ最モ必要ナルモノハ何ナルヤ 六十

此戦争ハ日耳曼帝國ニ如何ナル影響ヲ及ホセシカ 六十

「尼せるらん」とノ人民ハ何ヲ以テ其名歐洲ニ冠タリシカ 六十三

非立カ新教人民ヲ刑ニ處セシ結果如何 六十三

四十年戦争ハ何年ニ起リ何年ニ終リシヤ又其原因如何 六十三

和蘭共和國ノ基礎ヲ立テシハ誰ナルカ 六十四

和蘭人天下ニ名ヲ博シタルハ何故ゾ 六十四

和蘭共和國ノ獨立ノ定リタルハ何時ナルヤ 六十四

佛蘭西ノ舊教ノ首領ハ誰ナルヤ又之ガ後助ヲ爲スモノハ誰ナルヤ 六十四

又此時ニ新教ノ首領ハ誰ナルヤ後援ハ誰ナルヤ 六十四

佛國內乱ノ原因 六十四

佛國內乱ノ有様如何 六十五

ふらしす一世日佛戦争如何 六十五

英普奧三國同盟軍ト佛國軍ト雌雄ヲ決スル戦ヲ開キシハ何地ゾ 六十五

うをたゝろゝノ戦ニ續テ如何ナル事件起リシカ 六十六



英佛戰爭トハ如何 六十六

三十有餘年ノ内乱ノ種子ヲ絶チタルハ何ニ由リシカ 六十六

十六世紀ノ間英倫ヲ支配シタルモノハ誰ナルカ又此時代ニ性質ヲ形造クルモノハ何カ 六十六

英國ニ於テ最モ注意スヘキハ何ナルヤ 六十七

顯理六條ヲ設ケシ後新舊兩教共ニ虐待ヲ蒙リシ原因 六十七

宗教改革ノ發端ハ誰ナルカ 六十七

宗教改革ノ源因如何 六十七

まゐるちんるーさートハ何人ソ且いんだるせんすトハ如何 六十八

うるむすノ國會トハ何ソ 六十九

米理ノ非立第一世ト結婚セシ目的ハ如何 六十九

結婚ノ結果如何 六十九

此連合ハ英國人ニ取リテ如何 六十九

英倫ノ歐洲ニ於テ最上等ノ地位ヲ占メタルハ誰ノ爲メナルカ 六十九

西英戰爭ノ結果ハ如何 七十一

英領印度ノ基ヲ發シタルハ何年又誰ノ時代ナルカ 七十一

十六世紀ニ於テ最モ著明ナル事實ハ如何 七十一

英國ノ文學ニ秀デタルハ何故ゾ 七十一

英國人民ノ平穩ノ處置ヲ施サリシハ如何 七十一

全國ヲ分カチ十一ト爲シタルハ何故ゾ 七十一

英國人が千六百八十八年ノ榮光アル革命ナル者ハ如何 七十二

佛國ノ專制國ト爲タル原因 七十二

路易第十五世ノ一世間ニ企テシ戰爭ノ目的且ツ各名稱及ヒ年數及ヒ其數ヲ問フ 七十二

路易王和蘭國ヲ襲ヒシ原因 七十三

其時ニ路易王如何ナル方法ヲ用ヒシヤ 七十三



此戰爭ノ結果如何

七十三

佛王ノ勢力ヲ失ヒ數多ノ邦國ヲ棄テタルハ何故ア

七十三

英倫ニ於テ十七世紀ヲ貫穿スル事件ハ何ナルヤ

七十三

舊教徒ハ如何ナルコトヲ王ニ爲サントセシヤ

七十三

其後議員爭ヒハ誰ノ時代ニテ其有様ハ如何

七十四

查祿斯王ノ復ヒ議院ヲ召集セシハ何故ア

七十四

長議院ノ起元ヲ問フ

七十四

びゆりたん黨ヲ幾何ニ分ツヤ各其名ヲ問フ

七十四

「布れすびてりやん」ノ説ク所ハ如何

七十四

因でぺんでんとノ説ハ如何

七十四

查祿斯王死刑ノ宣告ヲ受ケシハ何年又如何ナル故ヲ以テセシカ

七十四

查祿斯沒後ノ英國ハ如何

七十五

斯ちゆあると家ノ爲メニ理没セラレシ英國ノ名譽ヲ回復セシメシ

ハ誰ナルカ

七十五

「區ろむうゑる」晩年ハ如何ナル有様ヲ現出セシカ

七十五

「くゑつか」ノ起元及ヒ其主意ヲ問フ

七十五

英國ニ於テ專制政治ノ再發ノ原因如何

七十五

千六百八十八年革命トハ如何ナルモノナルカ

七十五

革命ノ結果如何

七十六

權利狀ノ中重ナル者ヲ舉ケヨ

七十六

維廉ノ時ニ議院ノ勢力ヲ増セシ原因如何

七十六

安王時代ニ於テ最モ有名ナル事件ハ何ナルヤ

七十七

十七世紀ノ歐洲文明ノ有様如何

七十七

魯西亞ノ起元ヲ問フ

七十七

彼得ノ目的如何

七十七

歐洲文物ガ魯西亞ニ行ハル、ニ至リシ原因

七十七



仙とババのたすばいぐハ誰ノ設立スル所カ

七十七

彼得ノ賜如何

七十八

七年戦争ノ原因

七十八

七年戦争ノ結果

七十八

亞米利加革命ハ何世紀ナルカ

七十八

南海會社ノ目的如何

七十八

英國史中最長期ハ誰帝ナルヤ

七十九

亞米利加革命ノ乱ハ何ヨリ起リシカ

七十九

亞米利加革命後英國ノ著明ナル政治家ハ誰ナルヤ

七十九

佛國黃金時代ハ何帝ノ治世中ナルヤ

七十九

佛國革命ノ原因ヲ記セヨ

七十九

佛國革命ノ起元如何及ヒ何帝ノ時代ナルヤ又何年間カ

七十九

路易第十五世ノ死刑ニ處セラレタルハ何年ナルヤ且ツ其ニ就キ歐

洲人民ハ如何ナセシカ

八十

上官政府時代最名譽ナルハ如何又其重ナルハ誰ナルヤ

八十

伊太利戦争後二十年ノ歐洲史ノ大部ヲ占ルモノヲ記載セヨ

八十

拿破崙ノ埃及ヨリ返リシ時ノ國狀如何

八十

佛國ニ於テ最モ記憶ヲ要スルモノハ如何

八十

路易王十八世ノ智徳共ニ欠亡カ人民ニ取リテ如何

八十

七ヶ月革命ノ原因且ツ起年ヲ問フ

八十一

佛國ニ於テ最モ必要ナル事件ハ如何ナルモノナルヤ

八十一

奧普戦争及聯邦ノ分離如何

八十一

普佛戦争ノ原因及結果如何

八十二

南北戦争トハ如何ナルモノカ

八十二

十七世紀ニ於英國一時共和制治トナレリ其巨魁ハ何人ニシ其原因

八十三

ハ何ナルヤ

八十三



十八世紀ノ始メ迄魯國ノ振ハザル原因	八十四
佛國革命ノ目的及ヒ歐洲ニ及ボシタル影響ハ如何	八十五
くりみや戦争并ニ巴理條約ヲ記述セヨ	八十五
ピール大帝トハ何人ツ	八十六
瑞西トノ戦争トハ如何	八十七
ピール大帝ノ治世并魯國勢力ハ如何	八十八
十七世紀ニ於ケル哲學ノ進歩ハ如何	八十八
十七世紀ニ於テ重要ナル理學ノ發明如何	八十九
十七世紀ノ文學ハ如何	八十九
十八世紀ニ於テ文學哲學ノ發達如何	九十
十八世紀ノ理學ノ進歩如何	九十一
伊太利再興如何	九十二
希臘國自由戦争ノ起元及ヒ結果如何	九十二

十六世紀ハ何ヲ以テ充サレルカ	九十二
十七世紀ノ大部ヲ問フ	九十三
十八世紀ハ如何	九十三
十九世紀ハ如何	九十三
歐洲現今共和政治國ヲ列記セヨ	九十三
現今世界ニ於ケル共和政治國ヲ舉ケヨ	九十四
現今世界ニ於ケル君民同治ノ國ヲ舉ケヨ	九十四
現今世界ニ於ケル君主專治ノ國ヲ舉ケヨ	九十四

近世史附誌

英國王位繼承令及權利法典

萬國歷史問答附錄

泰西各國邦制ヲ問フ



法教ノ異同及最盛ナル國名ヲ問フ

曆ノ種類及其元トナス所ヲ舉ケヨ

言語ノ區類ヲ示セ

世界有名ノ高塔ヲ舉ケヨ

受檢 萬國歷史問答

(古代史)

尾關春三編纂

◎歴史ノ定義ヲ示セ

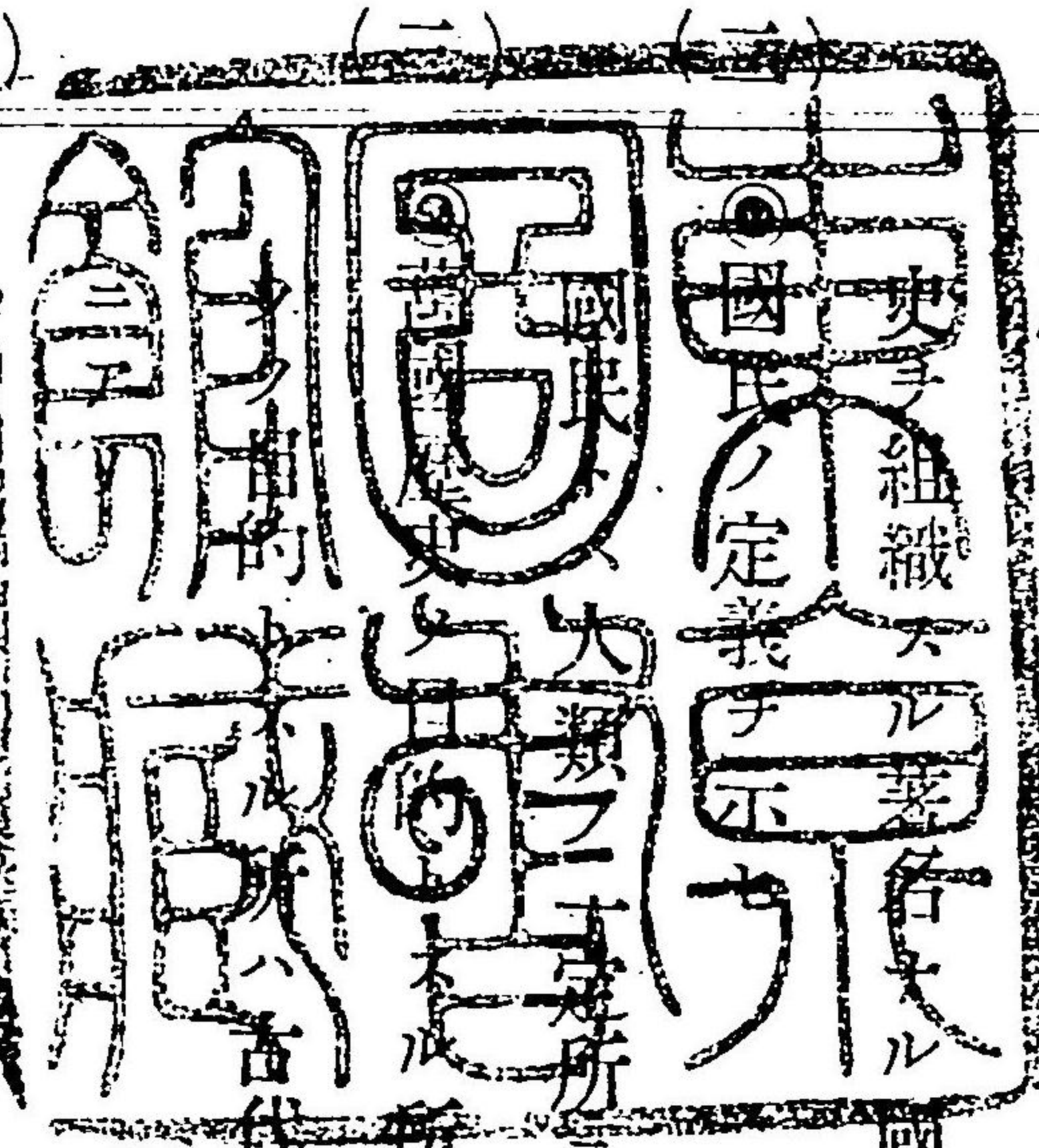
歴史トハ汎然コレヲ解スレハ過去事蹟ノ記録ナリト雖モ茲ニ所謂歴史トハ其爲行明文  
史ヲ組織スルモノナル國民ノ發達進歩トヲ記載スルコト云フナリ

◎歴史ノ大類ニテ是所ニ居住シテ一政体ヲ構フルモノヲ云フ

◎歴史ノ本質ニテ是所ニ漸次ニ進歩シ來リタル世界文明ノ景況及源因ヲ研究スル

◎文明ニ最大關係アル人種ヲ問フ

全世界ノ人種ハ數多アルモ此人種中ニテ文明ト關係ヲ有スルモノハ唯タ白哲人種ノミ  
日本支那等ノ如キ文明ノ範圍内ニ於テ多小ノ演劇ヲナシタルモノ文明タルヤ滯滯不



(四)

(二)

(一)



(五)

進ニシテ世界全体ノ文明ト密接ノ關係ヲ有スルコトナシ

◎白哲人種ノ區別及其特長ヲ記セ

白哲人種ヲ分チテ「はみちつく」「せみちつく」「るりあん」ノ三トス而シテコノ區別ハ全ク言語ノ相違ニ基クモ亦タソノ特長ニ於テモ異レリ「はみちつく」ハ建築術ニ秀テ「せみちつく」ハ宗教心最モ發達シテ猶太教耶蘇教回々教皆ナコノ人民ヨリ起ル「るりあん」ハ智力他ニ過キ活潑有爲ナリトス

(六)

◎世界文明ノ起原及進路ヲ畧記セヨ

世界文明ハ先ツ亞細亞西南部ニ於テソノ源ヲ起セリコレ土地豐饒耕耘ノ勞ナク概テ米穀等ノ食品天然ニ發生スルカ故ニ人口繁殖シ從テ國ヲ成シ文明ノ進歩遙ニ他ノ地方ニ過キタルモ其制度宜ク得サルト數多ノ原因ヨリ充分ノ發達ヲナス能ハス「ぐりー」人コレヲ受ケ一種ノ文明ヲ作り羅馬ニ傳ヘ羅馬ヨリ歐洲全土ニ播マリ遂ニ今日ヲ致セリ

(七)

◎歴史ノ時期ヲ大別シテ三トス其期限名稱ハ如何

世界文明ハ一帯ノ長流ヲナシ前後前關係スルモ便宜ニヨリ之ヲ分チテ三トス

(八)

古代史 太古ヨリ紀元後四百七十六年西羅馬ノ滅亡ニ至ル

中古史 第五世紀則チ西羅馬滅亡ヨリ紀元後千五百十七年ノ宗教改革ニ至ル

近世史 第十六世紀宗教改革ヨリ現今ニ至ル

◎東洋古代ノ主要ナル文明國ヲ列挙セヨ

埃及「あつしりや」「ばひろふや」<sup>シユリア</sup>猶太「ふひふしや」<sup>ペルシア</sup>印度及波斯等トス

(九)

◎世界中國史ノ最古ナル國名ヲ問フ

埃及ハ政府及政度ノ建設最モ早クシテ最舊國ニアラストスルモ國史ノ古キ埃及ノ上ニ出ツル國ナシ

(十)

◎埃及ノ地理人種ヲ問フ

埃及ハ亞弗利加ニアリテないる河畔ニ國ス其ノ源流「あびしにや」諸山霖雨連リナルヲ以テ國內ニ溢溢シ泥土聚積シ地味ヲ肥沃ニナシ穀物ノ收穫頗ル多ク人口繁殖ス埃及人種ハ「せみちつく」族ニアラス「ありやん」族ニモアラス故ニ「はみちつく」族ト云フ

(十一)

◎埃及歴史ヲ容易ニ知り得ルニ至リシ原因ヲ示セ



(二十)

十八世紀ノ終リニ當リ<sup>ナホレカン</sup>拿破崙第一世佛兵ヲ卒テ埃及ニ入ルヤ一匠長ないる河日ニアル  
 るせつた港ニ近キ塞趾ヲ發掘シ三種ノ文字ヲ以テ記サレタル三尺計ノ一石札ヲ發見ス  
 るせつた石則チコレナリコノ銘文ヲ磨寫シ諸學士ニ示シ努力勤勉終ニ今日ニ至リテハ  
 容易ニ讀ムヲ得是レニ由リ埃及古史ヲ照ラスノ一新燭トナレリ

(三十)

● びらみつとノ建設ハ何世紀ナルカ  
 埃及古帝國時代紀元前二千八百年ノ頃第四朝ノ諸王びらみつとノ建設アリ元トコレ國  
 王墳墓ノタメ築キタルモノニシテ孟斐斯近傍ニハ甚タ多ク今日現在スルモノ數十アリ  
 其最高ナル者ハ四百八十呎ニ達シ其基礎平方七百六十四呎面積十三「ゑーくる」アリト

(四十)

● 埃及全盛ノ時期及其景況ヲ問フ  
 埃及新帝國時代紀元前千五百二十七年ヨリ同千二百年ニ至ルノ三百年間ハ實ニ全盛ノ  
 時ニシテ内ハ技藝大ニ進歩シ外ハ武威四方ニ輝キ亞細亞地方多クソノ領トナル

(五十)

● 埃及ノ階級制度及結果如何  
 埃及ハ世襲君主政治ニシテ階級制度ノ設ケアリテ僧族武族庶民ノ三ニ區別サル而シテ  
 コノ結果タルヤ門閥ヲ貴ヒ人才ヲ擧ケス爲メニ進歩改良ノ道ヲ阻害シ各人ノ志望ヲ挫  
 折シ國ヲ衰頹セシメ文明ヲ中止スルニ至レリ

(六十)

● 紙製造ノ起原ヲ學ケヨ  
 埃及人ハびらすト稱スル植物ノ葉ヨリ良好ノ紙ヲ製スコレヲ書寫用ニ供セリ當時ベ  
 ーバの語コレヨリ始マル

(七十)

● 前ばびるふや王國ノ地理ヲ概説セヨ  
 かるでいあ則チ前ばびるふや王國ハへるしや灣頭ナル沃原ノ低地ニ起リ土地膏腴ニシ  
 テ現ニ小麥ノ自生ヲ以テ稱セラレ穀物豐饒魚鱗河水ニ滿テリ

(八十)

● 前ばびるふや王國天文學進歩セシ所以ヲ問フ  
 前ばびるにや人ハ日月星辰ヲ尊重セル神トシ禮拜セリ宗教此ノ如キト其季侯並ニ平地  
 ノ便宜ヨリ天文學數學大ニ進歩セリ巳ニ一年ヲ十二月一周ヲ七日一日ヲ十二時一時ヲ  
 六十分ニ分チ且ツ權衡尺度ヲモ發明セリ

(八十)

● 前ばびるふや人民ノ氣風及ヒ文字ヲ問フ



(九十)

此人民ハ太古ヨリ建築ヲ好メリ一塔ヲ建テ天ニ達セシメント企テシカ如キ能ク人民ノ氣風ヲ顯ハセリ而シテ文字ハ形ヲ藏ノ如ク今日學者ノ解スルモノ三百字ニ近シト

◎あつしりや略史ヲ述ヘヨ

あつしりや人ハせみちつく族ニシテかるでいあニ住セシカたいぐりす河ノ上流ニ移リ人口繁殖シ遂ニ一國ヲナス始メハばびろんニ屬セシモ紀元前千二百五十年ノ頃獨立國トナレリ凡ソ六百年間亞細亞西部ノ大帝國タリ「せんなきりふ」王ノ治世ハ諸國ヲ征服シ版圖ヲ廣メふねべ都府ヲ修築シテあつしりや全盛ヲ極メ黄金時代タリソノ後久シカラスシテ屬國相叛シふねべハ「めぢあ」人「ばびろん」人ノタメニ陷レテ國遂ニ亡ブ紀元前六百二十五年ナリ

◎後ばびろん王國再興者誰レソ

ばびろん人「めぢあ」人ト連合シテあつしりやヲ亡ホスヤ「なばばらさる」ナルモノ「ばびろん」ヲ再興シ王位ニ上ル

◎ねぶかどねぎあ王在位間後ばびろんふやノ景況如何

(一十二)

なばばらさるノ子ねぶかどねぎあハ才幹アリ善ク兵ヲ用ヒ在位四十三年間常ニ隣國ト戦ヒ大ニ成功ヲ輝カセリ「ちいる」城ヒゑるされむ城攻圍ノ如キ武功赫々タルノミナラスばびろん府ヲ再建セリ後ばびろん全盛ノ時代ハコノ時ナリ

◎ばびろん府ノ景狀ヲ問フ

ばびろん府ハ方形ニシテ大サろんどんニ五倍シゆーふれーテす河斜ニ府内ヲ流レ宮殿及架空園ノ如キ當時世界ノ偉歎ナリト云フ

◎後ばびろんハ誰レノタメ如何ニシテ滅亡サレシカ

ねびかどねぎあノ後三世なほなちあすノ時ニ至リ隣國波斯王ペルシヤさいらす突然兵ヲ率テばびろんニ進入ス然レトモばびろんノ城寨堅固稔ク能ハサルヲ知リ窺ニ溝渠ヲ穿テ城中宴アリシト「ゆーふれー」テす「ノ河水ヲ其溝渠ニ導キ河水ヲ涸レシメ城中ニ侵入シ全勝ヲ得タリ時ニ紀元前五百三十八年ナリ

◎猶太ノ建國及政体ヲ示セ

往古猶太人ハ埃及ニアリシカ埃及國王コレヲ虐待シ堪ヘスシテ「もせす」ヲ首トシ全族

(四十二)

(三十二)

(二十二)

(十二)



埃及ヲ去リシハ紀元前千三百廿年ノ頃トスソレヨリ數十年あらびや沙漠中ニ彷徨シ漸ク「かなん」ニ達シテ近隣ヲ征服シ國ヲ立ツ然レトモ帝王ヲ置カス天帝ヲ以テシ僧侶ヲ法官トセリ然レトモ遂ニ君主ヲ奉スルコトシ「そーる」ヲ以テ王トナス

●猶太ノ宗教ヲ問フ

猶太人ノ宗教ハ他諸國トハ大ニ異リテ他諸國多クハ多神教ナリシモ猶太人ハ夙ニ一神教ヲ奉シ教義頗ル高尚ナリキ

●ふいにしあ古代商業ノ景況ヲ略述セヨ

古代各國ハ概テ戦争等ニノミ事トセシモふいにしあハ然ラス唯々商業及殖民ニ盡力セリ而シテ其地理タル國小ニ土地瘦セ南猶太ニ隣シ西地中海ニ接シ東「れはのん」山ヲ背ニス「れはのん」山ヲ超テ亞細亞中部ノ沃野ニ至リ地中海ハ波濤靜ニシテ渡リ易ク「れはのん」山木材多クシテ船ヲ作ルニ便ナリコレヲ以テ亞細亞ノ産物ヲ地中海紅海ニ浮ヘ亞弗利加歐羅巴ニ致スベシ又々地中海ノ諸岸ニ殖民地ヲ置キ商業ヲ繁治ナラシメ故ニふいにしあ人ハ三大洲ノ商利ヲ壟斷シ富裕ナルコト天下ニ冠タリ而テソノ區域東印度錫蘭

(五十二) (六十二)

西ハ大西洋ヲ越ヘ古代ノ英吉利ニマテ及ベリ

●ふいにしあ國ノ殖民地ヲ舉ケヨ

ふいにしあ人ハ留易運輸殖民ニ從事スル最モ早クソノ殖民ノ及フ所東ハ波斯、印度ノ海岸ヨリ西ハ亞弗利加ノ北岸西班牙ノ南部ニマテ達セリ

●ふいにしあ邦制ヲ問フ

ふいにしあ邦制ハ古昔亞細亞諸邦ト異ナリテ數個ノ市府ヨリ成立シ市府ハ各別君主ヲ戴キ只危急ノ時ノミ相連合シテ一人ノ首長ヲ奉シタリ

●あるはべつとノ發名ハ誰レゾ

ふいにしあ人ハ「あるはべつと」ノ發名者ニシテ「あるはべつと」ハ羅馬字ノ本源ニシテ遠ク現今歐洲文字ノ基本ヲナセリ

●印度ハ歐洲諸國ト人種ノ始元ヲ同フシ其ノ文明ノ性質ヲ異ニスル所以ヲ問フ

始メ印度ニハ源住ノ土人アリシニ紀元前三千年ノ頃波斯東北地方ニアル「ありあん」人ノ一部タル印度人漸々南シテ「いんだと」「がんどと」「河邊」ニ來リ土人ヲ征服シ居住ス然

(七十二) (八十二) (九十二) (十三)



ルニ土人ト混和シテ風俗習慣ハ漸次ニ「ありあん」人ノ本質ヲ失ヘリ元來「ありあん」人ハ進歩ヲ好ムモ印度人ハ保守ニ傾キ遂ニ歐洲諸國ト人種ノ始元ヲ同フスルモ文明ノ性質ヲ異ニスルニ至レリコレ印度人ノ土人ト混和シタルニ原因ス

◎歐羅巴人ニシテ始メテ印度ヲ知リシハ誰レカ

紀元前三百廿六年歴山大王初メテコノ印度國アルヲ知ル

◎印度ノ階級制度ヲ問フ

印度ハ古ヨリ階級制度ノアルアリテ人民ノ階級ヲ四ニ分ツ第一ハ「ぶらみん」ト云ヒ宗教及學問ヲ掌リ第二ハ「しあとりあ」ト云フ軍人及官吏ナリ第三ハ「ベーしあ」トテ農工商ヲ云ヒ第四ハ「さくら」トテ最下級ニシテ多ク原住ノ土人ナリ尙ホコノ下ニ穢多ノ如キモノアルトカ各級相雜婚スルヲ禁セリ

◎佛教ノ由來ヲ略記セヨ

始メ印度ニハ波羅門教アリテ宇宙萬物ヲ以テ神靈トシ靈魂流轉ノ說ヲ奉セリ然ルニ波羅門教ノ僧侶專横ヲ極メ人民ヲ虐遇シ弊害ヲ生シ國內四分五裂爭亂絶ユルコトナシ釋迦

ニ至リコレヲ慨嘆シ佛教ヲ起ス而シテ紀元前六世紀ノ頃トスコレヨリ印度全國佛教ヲ信仰ス佛教ハ虚空寂滅ノ理法ヲ以テ私慾ヲ制シ社會ノ靜安ヲ謀レリコ、ニ於テ殺伐ノ風止ミ其勢力日ニ熾ンナリ波羅門教徒コレヲ恐レ遂ニ國外ニ放逐ス佛教徒逃レテ錫蘭ニ隱レ西藏ニ入り支那朝鮮日本ニ入ル

◎さいらす王ノ偉業ヲ略記セヨ

波斯ハ始メ「めじあ」ノ屬國ナリシモ紀元前五百五十八年「さいらす王」波斯王トナルニ及ヒ「めじあ」ヲ征服シ獨立帝國トナルさいらす王ハ英邁ニシテ大志アリ即位ノ初メヨリ紀元前五百三十八年マテノ間諸國ト戦ヒ東「いんだす」河ヨリ西「しりあ」ノ海岸ニ至ルマテ盡ク版圖ニ歸シ彼ノ堅固ナルばびろん城ヲ拔キシハ實ニ此ノ王ナリ

◎古代歐洲ニ於テ文明ノ濫觴ト稱スヘキハ何國民ゾヤ

太古人類ハ亞細亞ニ於テ文明ノ端緒ヲ開キ漸次歐羅巴ニ及ホシ始メテ文明ノ域ニ達セリ而シテ歐洲文明ノ濫觴ハ實ニ希臘國民ニテ世界ノ政治及智力ハ始テ此國ニ發達セリ

◎希臘古代ノ住民如何



古代希臘ノ住民ヲ「べらすぎ」ト稱シ耕耘ニ熟セリ然ルニ「ありあん」ノ一孤タル「へれん」人來リコノ地ヲ征服ス「へれん」人後四ニ分ル「どりあん」人「あいおにあん」人「あけいあん」人「るーをいあん」人之レナリ

(七十三)

◎希臘人種中ノ主要ナル二種族及其氣風ヲ問フ

希臘ノ四人種中ニ最モ主要ナルハ「あいおああん」人及ヒ「どりあん」人ノ二トス前者ハ雅典ヲ以テ本據トシ後者ハ「すばるた」ヲ首都トスコノ二種族ハ氣風相容レサル所多ク「あいおにあん」ハ民主政体ヲ主張シ華美ヲ好ミ商業美術ヲ愛スルモ「どりあん」ハ風習質撲舊風ヲ墨守シ寡人政体ヲ執リ奴隸制度マデモ維持シタリ希臘史ハ要スルニコノ二人種ノ争ニ過キス

(八十三)

◎古代希臘人カ文明ノ祖タリシ原因ヲ問フ

希臘人カ夙ニ天赋ノ才能ヲ發揮シタルノ原因一ナラスト雖モ其地勢風土氣候ヨリシテナリ希臘ハ歐洲ノ南部ニ在リ地中海ニ突出セル半島ニシテ絶景勝地多ク氣候温暖ナルカ故ニ人民ノ發達ニ適シ且ツ島嶼地峽岬角多ク交通ニ便ナルヲ以テ航海ノ業早ク開ケ

タルナリ

(九十三)

◎古代希臘盛時ノ版圖ヲ記セ

希臘ハ小半島ニシテ長南北凡二百五十英里幅最モ廣キ所凡百八十英里トス而シテ殖民地ノ主要ナルハ小亞細亞西濱ニアリ之ニ次クチすれす及ませんノ海濱シヨリ島伊太利南部亞弗利加北濱等トス

(十四)

◎古代希臘ノ狀況ヲ述ヘヨ

希臘正史前ノ事蹟ニシテ主要ナルモノヲ「どりあん」人種ノ紀元前千一百年頃希臘北部ヨリ移轉シ陸路「へるすばんど」ノ東南ニ入ル土民あきあん人種避ケテ其北西海濱ニ行キ土民あいおああん人種ヲ希臘中部ニ逐フ此時紛亂ヲ避ケテ小亞細亞ニ移住スルモノ多シ是レ小亞細亞殖民ノ緣由ニシテ漸ク繁殖シ「いをりあん」「あいおああん」「どりあん」ノ三大區ヲナス殖民地ハ常ニ本國ト交通シ希臘ノ言語風俗技藝宗教學術等總テ行ハレ後世ニ至リ文明ノ進歩本國ニ優レリ

(一十四)

◎古代希臘ノ末路ノ情況ヲ問フ



希臘ニ於ケル諸強洲ハ「ませどん」「あけりあ」「いーとりあ」「すばるた」等ニシテ「あけりあ」「いーとりあ」「諸洲同盟聯合ヲ成立ス希臘同盟聯合諸洲ハ中央政府ノ政治ニ參與シ宜戰講和ノ權ヲ中央政府ニ委任セリコレ各洲孤立スル時ハ「ませどん」國ノタメ壓制サレ自由ヲ維持スル能ハサルカ故ナリソノ主タルヲ「あけりあ」「同盟及いーとりあ」同盟トス猶其他數小聯合アリ唯々「すばるた」「ませどん」ヲ除ケハ希臘過半ハ聯合ニ加盟スユノ希臘同盟ハ「ませどん」ノ羈軛ヲ脱シ獨立ヲ維保シ其素志ヲ達ス「あけりあ」「同盟諸洲ハ「あらたす」「ひろびんめん」ヲ奉戴シ國勢大ニ振ヘルモ「すばるた」嫉妬專恣國中一致セズ内亂ヲ來ス「ませどん」コレヲ調停シ遂ニ再ヒ希臘國主トナル此時羅馬人カセーヂ國ヲ取り東方諸洲ト戰爭年フリ紀元前百六十八年「ませどん」ハ「はいどな」役ニ大敗シテ覆滅シ此後數年希臘諸洲ハ獨立シタルモ内亂相次キ紀元前百四十六年羅馬ノタメニ亡ホサレ「あけりあ」ト稱シ隸屬セリ

希臘末世ノ文運ハ創意發明ノ才智アルモノナク歴山大王ノ東洋征服ト希臘東方諸國統治ハ小亞細亞ヲシテ希臘ニ風化セシメタルモ希臘亦タ反動ノ影響ヲ蒙リ東洋卑屈ノ弊習浸潤シ往時ノ質樸勇敢ノ風地ヲ拂ヒ文章ニ氣骨ナク技術粗惡ニ流レ唯々時好ニ投スルヲ願ヘリ

## (二十四)

●すばるたノ階級制度ヲ問フ  
すばるた人民中ニハ三種ノ階級アリ一ヲ「すばるちあちー」ト稱シ最上級ニシテ都人士ヲ指ス二ヲ「ペリーさい」ト稱シ「あけりあん」ノ子孫ニシテ貢粗兵役ノ義務アリ三ヲ「へろつど」ト云ヒ「あけりあん」人ニシテ「すばるた」人ノ奴隸トス

## (三十四)

●らいかるカスノ法制ヲ略記セヨ  
「すばるた」王族ニ「らいかるカス」ナルモノアリ國治ノ緒ニ就カサルヲ憂ヒテ古來ノ典例ヲ調査シ法律制度ヲ定ム又々國ノ強成ハ勁健武幹ノ人ヲ養成スルニアリト思ヒ一國ノ童兒財物土地總テ公有トス而シテ孱弱ノ男兒ハ之ヲ棄テシメ或ハ下段ノ階級ニ貶シ強壯ノ男兒ハ七歳ニ達スレハ政府ノ監督ヲ受ケ武事ヲ練習シ六十歳ニ至ルマテ軍務ニ従事ス尙ホ女子モ年少ノ間ハ男子ト同ク練兵ニ出テシメタリ故ニ強壯武勇ナル男子ニ讓ラス又々質素廉直ノ風ヲ生セシメンカ爲貴賤老幼ヲ問ハス公堂ニ於テ會食シ衣食



住ノ度ヲ制限シ貨幣ハ金銀ヲ廢シテ鉄ヲ以テセリ「らいかるがす」ノ目的ハ全國人ヲ武人ヲラシメントニアリ且ツ「らいかるがす」ノ制定シタル國憲ハ國王ヲ二名元老院國民院ヲシテ補佐セシメ執政官五人ヲ置キ政治ヲ施行セシメタリコノ制度ハ武力ヲ強クスルノミニシテ文明ハ進歩セサリキ

◎雅典政治ノ沿革ヲ説ケ

雅典ハ始メ王政ナリシモ其後王族中ヨリ首領一人ヲ撰擧シ其期限ヲ一生涯トセシモ短縮シテ十年トシ遂ニ一年トセリ而テ其員數モ九人トナリ議政官アリテ國政ヲ評議シ此ノ如ク共和政体ヲナスモ此等ノ者ハ皆貴族ノミニシ平民ハ全ク政權ナク貧困ニテ奴隷トナル多シ紀元前六百二十四年「どうらこ」成文律ヲ作り國法ヲ一定セシモ慘刻ニ過キ却テ人民ノ騷擾ヲ致シ一時無政府ノ体ナリシ紀元前五百九十四年ニ至リ「ころん」斷然「どうれこ」ノ法律ヲ全廢シ新法律ヲ頒布シ負債ヲ減シ奴隷ヲ廢シ平民ニ參政權ヲ與フ此ヨリ三大黨派ヲ現出ス富民黨貧民黨中立黨トス「くりすせねす」ハ貴族ナルモ貧民黨ニ加ハリ此時始メテ真正ナル民主政体トナリ雅典人ハ自由平等ノ權ヲ得大ニ愛國心ヲ

發シ國運ノ進歩著シク中部希臘ニ全權ヲ振フニ至ル

◎波斯ト希臘トノ間ニ起リシ重モナル戰爭ハ幾度ニシテ何レノ地ニ於テセシカ

五度ニシテソノ戰地ハ「まらそん」「せるもぱりー」「さらみす」「ぶらちや」「みけーる」ノ五地トス

◎波斯戰爭ノ源因及結果ヲ問フ

波斯「だりあす」王ノトキ小亞細亞ニアル「あいをわん」人ソノ壓制ニ堪ヘス反旗ヲ擧ク雅典人コレニ兵ヲ遣ハシ助ク「だりあす」王大ニ怒リ紀元前四百九十三年希臘全土ヲ蹂躪セントシ海陸並ヒ攻ム陸兵ハ破レ海軍ハ颶風ニ逢フ尋テ「だりあす」王ハ使者ヲ發シ希臘人ヲシテ服從ヲ証セシメントテ促ス雅典及「すばるた」ハコレヲ拒ムコ、ニ於テ大軍ヲ擧ケ侵襲セシムコノ役三回紀元前四百八十年波斯全敗ス

◎でろす同盟トハ如何

波斯戰爭ニ於テ功績ノ最モアルハ雅典軍ナリシカハ雅典ノ威力自ニ加ハルコ、ニ於テ希臘屬島ノ市府ハ自由ヲ保持センカタメ協議シでろす同盟起ル雅典ソノ盟主タリ







稱ス

(三十五)

◎ふひりつふ王ノ秘謀及是ヲ豫知セシハ誰ソ

紀元前三百年代ノ中頃ませとん國王「ふひりつふ」ナルモノアリ大志ヲ抱キ希臘全國ヲ併呑セント欲シ時機ノ到ルヲ待ツ時ニ雅典ノ雄辯家「でもせおーす」ソノ野心ヲ看破シ雅典人ヲ戒メ之ニ備ヘシメントセシモ當時雅典ハ愛國ノ情衰ヘ且ツませとん國ニ重キヲ置カサリキ然ルニ希臘ニ「すばるた」「しーぶす」雅典ノ戦争起リ國內紛乱ス「ふひりつふ」「ユノ機ニ乗シテ紀元前三百三十八年ニ至リ遂ニ雅典及ヒ「しぶす」ヲ征服シ希臘ヲ以テ領屬トナス

◎聖役ヲ略記セヨ

紀元前三百五十五年「ふ井しす」人「でるひー」のあばる「神社附屬地ヲ耕ス」「あんふひくしよん」教會罰金ヲ科セシニ反テ神殿ノ財寶ヲ奪ヒ隣國「せざりし」ニ寇ス「せざりし」「ふひりつふ」王ニ援ヲ乞フ王兵ヲ出シ「ふ井しす」人ヲ破ル是ヲ第一聖役トス又々紀元前三百三十九年第二聖役起ル「ろくりす」人「でるひー」ノ神地ヲ取り之ヲ耕ス是ニ於テ

(四十五)

「ふひりつふ」假面ヲ脱シテ希臘ヲ打チ大ニ勝チ希臘獨立ヲ失フ

◎歴山大王ノ事蹟ヲ問フ

「ふひりつふ」王希臘ヲ征服シ波斯征討ノ師ヲ起サントシ臣下ノ爲メニ殺サル子歴山大王次ク年甫メテ二十父ノ遺志ヲ次キ自ラ都督トナリ波斯遠征軍ヲ起セリ兵三萬ヲ卒テ「へるすばんど」海峡ヲ渡リ小亞細亞「しりあ」埃及等ヲ征シ遂ニ波斯國ニ入りコレヲ破リ更ニ印度ヲ征シ歸リテ「ばびろん」ニ都ス紀元前三百二十三年亞刺比亞ヲ伐タントスルニ臨ミ歿ス年三十三ナリ

(五十五)

◎希臘衰頹ノ原因ヲ列擧セヨ

希臘ヲ衰頹セシメタルノ重モナル原因四アリ(一)列國間ノ一致和合力弱カリシコト(二)ペレぱんねさす戦争及しーぶす戦争(三)哲學者ノ邪說ヲ唱ヘタルコト(四)宗教ノ道徳ヲ維持スルニ足ラサリシコトコレナリ

(六十五)

◎希臘ノ政体ヲ問フ

希臘ハ數多ノ小邦ニ分レ政体風俗モ國ニヨリ多少相異ルモ民主政体ハ一般ニ行ハレタ

(七十五)



リ上古ノ諸國特ニ東洋諸國ハ專制武斷ノ政治ヲ以テ國ヲ立テタルモ獨リ臘ノミハ民主  
々義ニシテ民權頗ル發達セリ。

(八十五)

◎希臘宗教及祀祭ヲ問フ

宗教ハ初メ力有神教ニ類シ自然ノ現象ヲ崇拜セリ而シテ東洋諸國ハ恐怖ヲ以テ基トス  
ルニ希臘ハ然ラス神ヲ敬愛スルヲ主トナス其神タル人類ニ近ク善惡ノ兩德ヲ兼備スル  
カ故ニ人心ヲ匡正シ道德ヲ維持スル能ハサルモノナリ又々諸國人民相會シ祀祭ヲ行フ  
習慣アリソノ祀祭スル四ケアリ而シテコノ大祭ニ於テ希臘文明ハ大ニ益スル所アリ則  
チ各國人民ノ交通盛ンニシテ社會上商業上學問上ニ利便ヲ與ヘリ

(九十五)

◎希臘哲學ノ發達ヲ問フ

紀元前六世紀ニ「セー」るす「代人世界創造說ヲ唱フコレヲ希臘哲學ノ始祖トス是ヨリ前  
後碩學輩出シ紀元前四百六十八年雅典近傍ニ「ソクラテス」出テソノ前「ぱい」ごらす「  
「あなきじめす」「せほのふへんす」等アリ後ニハ「ぷらとー」「ねびきゆらす」「せい」あ  
りすとーとる」等アリ

(十六)

◎希臘文學及美術ノ發達如何

希臘ハ山水明媚風景ニ富ムヲ以テ人民ノ詩想早ク發達シ紀元前八百八十年頃「はーま  
る」出テ同七百七十年頃「へしをつと」出テソノ他大家輩出シ詩歌盛ンニシテ從テ音樂  
亦々進歩セリ而シテ美術ニ於テハ建築術彫刻術ノ二ニ秀テ共ニ空前絶後ト稱セラル

(一十六)

◎大古ニアリテ歐洲ノ法律政治ノ模範ヲ遺シタルハ何國民ナリシヤ

太古希臘ハ政体大ニ發達シ其政治及憲法ハ近世歐羅巴ノ模範トナレリ然レ憲法ノ外法  
律制度ハ羅馬人ノ長所ニシテ近時英國ヲ除キテハ歐洲諸國概チ羅馬法ヲ模範トシ之ニ  
由リテ法律ヲ制セリ

(二十六)

◎羅馬ノ地理及人種ヲ問フ

古昔羅馬ト稱スルハ現時ノ伊太利地方ニシテ歐洲ノ南部ニアリ三面地中海ニ面シ唯北  
方ノミ「あるぶす」ヲ以テ國境トス此地ニ住居シタル人種ニ四アリ「じー」る「人」「ねどら  
すかん」人「あいあびじあん」人伊太利人コレナリ

(三十六)

◎後日羅馬ノ大國ヲナシタル人種ヲ舉ケヨ



伊太利人ハ「ありあん」派ニシテ希臘人ト祖先ヲ同フセリ此種族「らちん」人「あむぶろさべりあん」人ノ二ニ分カル後日羅馬ノ大國ヲナシタルハ實ニ「らちん」人ナリトス

◎羅馬帝國創設ハ誰レゾ且ツ政体ノ變遷ヲ述ヘヨ

羅馬ハ紀元前七百五十三年「ろみゆらす」之ヲ創設セリ始メ王政ニシテ相承クル七人皆人民ノ選立スル所ナリ其下ニ元老院アリテ王ヲ輔ケ又ク國會アリテ國事ヲ議ス且ツ人民ニ貴族平民ノ二階級アリテ一切ノ行政職務ハ高僧ニ任シ土地所有、姓氏特用ノ二權ハ貴族ニ屬シ「こみしや、きゆりあた」ナル民會ハ貴族ノ集會ニシテ當時ノ平民ハ參政ノ權ナク唯々自由ノ民タルノミ然ルニ第五世ノ王「さるヴやす、たるやす」ニ至リ憲法ヲ改メ「こんみしや、せんちユリあた」ヲ立テ貴族平民皆投票スルヲ得セシム第七世「たるくいあやす、すーべるたはす」專制政治ヲ立ント欲シコノ制度ヲ廢ス人民相謀リ王及王族ヲ逐フ是ニ於テ共和政治ナル由テ毎年「こんさる」官二人ヲ選舉シ憲法ハ舊ノ如シコレヨリ貴族平民ノ階級爭亂アリ次テ貧富ノ懸キアリテ「しーざー」ニ至リ帝位ニ昇リ帝國ニ變ス

◎羅馬共和時代最初ノ執政官ハ誰レゾ

紀元前五百九年羅馬人ハ國王ヲ放逐シテヨリ直ニ共和政トナシ滿一年ノ期限ニテ「こんさる」官二人ヲ置クソノ最初ノモノヲ「ぶらたす」「こらちなす」ノ二人トス

◎共和時代羅馬ノ版圖ヲ示セ

羅馬ハ版圖漸次ニ増シタリ紀元前二百六十六年ニハ歐洲ノ南部ハ西太平洋ヨリ東「こんすたんちのぶる」海峽ニ亘リ地中海ノ諸嶋嶼ハ勿論亞弗利加ノ北岸并ニ小亞細亞、埃及「しりあ」皆版圖ニ歸シ之ヲ以テ外領トセリ

◎共和時代羅馬ノ外領ニ對スルノ法ヲ問フ

羅馬ハ征服シタル諸地ヲ外領トナシ總テ舊來ノ宗教、風俗、法律ヲ維持セシメ唯々太守ヲ派出シ之ヲ支配シ若干ノ租稅ヲ入レシメタリ

◎羅馬共和創建ノ際平民黨羅馬ヲ去ラントシタル原因及結果ヲ略述セヨ

羅馬人國王ヲ放逐シテヨリ政權再ヒ貴族ニ歸シ且平民ハ土地所有ノ權ナキカ故ニ貴族ノ土地ヲ借耕セシモ外患瀕ニ農務ニ從フ能ハス爲ニ地代ノ延滞スルハ勿論遂ニ一時



(九十六)

ノ急ヲ凌カンタメ貴族ニ負債ス然ニ貴族ハ期限ノ誤レルモノヲ捕ヘ奴隷トナシ或ハ禁  
監シ住家ヲ奪フ此ニ於テ紀元前四百九十三年平民一致シテ羅馬ヲ去ラントス貴族是ヲ  
聞キ大ニ驚キ人ヲ遣シ説カシム負債ヲ免シ奴隷ヲ自由ニシ且平民中ヨリ保民官ヲ撰擧  
スルコト二條件ヲ以テ双方締盟シテ和ス是ヨリ平民ノ權理ハ増進シ國民一致威ヲ振ハス  
◎「びゆにつく」戦争ノ原因

亞弗利加ノ北岸ニ「かせーぢ」ナル一強國アリ紀元前二百六十四年ノ頃海賊「しゝりー」島  
ヲ襲ヒ四近ヲ掠奪ス「かせーぢ」人ハ「しらきゆさん」人ト結ヒ撃ツ羅馬人海賊ヲ援ケ  
「かせーぢ」人ヲ敗リ且其所屬ノ要港ヲ拔クコレ此戦争ノ原因ナリ

(十七)

◎「びゆふつく」戦争ノ概略ヲ説ケ且ツ對軍ノ大將有名ナルモノヲ擧ケヨ

紀元前二百六十四年ヨリ同百四十六年ニ至リ前後三回ニシテ局ヲ結ヘリ第一回ニ於テ  
ハ「かせーぢ」初メニ勝シモ後敗ラレ和ヲ講シ第二回ニ至テハ「かせーぢ」ハ武器戰艦領  
地尽ク削キテ羅馬ニ與ヘ殆ント屬國ノ如シ然レトモ羅馬人ハ尙ホ第三回ノ戰ヲ起シ市  
街ヲ燒キ人民ヲ屠リ「かせーぢ」ハ「ホサル」始メ「しらきゆす」人ハ「かせーぢ」ヲ助ケンモ

去リテ羅馬ニ合從セリ兩軍有名ナル將ハ「かせーぢ」ニ「はんふばる」「ばーか」アリ羅馬  
ニ「しびを」「あふりかなす」アリ

(一十七)

◎羅馬共和時代末路ノ概況ヲ問フ

豪族ト貧民トノ争起リ「けらすかす」兄弟相次デ貧民ヲ助ケ長トナリ豪族ノ權力ヲ削ラ  
ントシ事成ラスシテ死ス次テ「しゆら」「まりあす」ノ争アリ府民コレカタメニ死スルモ  
ノ十五萬餘是レヨリ黨派益分レ國內紛亂再ヒ回復スベカラサルニ至ル人民ハ大英傑ノ  
出テコレヲ統一シ平和ト秩序ヲ得ンコトヲ欲セサルモノナキニ至ル

◎「しーぎー」ノ事業ヲ問フ

共和時代ノ末路ニ當リ「はんべい」「しせる」「けーとを」「くらつさす」等ノ英俊出ツ然レ  
トモ皆ナ天下ヲ一統スルニ足テスコノ時「しーぎー」ハ「ばびべい」「くらつさす」ノ兩人  
ト結ヒ政府黨ヲ仆シ自ラ羅馬ノ主權ヲ握ラントシ三人連合シ政治ニ盡力ス第一三頭政  
治コレナリ其後「しーぎー」選ハレテ大統領トナル期滿チ「ごーる」ノ大守タリ戰フコト  
八回漸ク「ごーる」ヲ征服ス時ニ「くらつさす」ハ戰死シ「はんべい」ノミ羅馬ニアリ獨リ

(二十七)



威ヲ振ハス「シーザー」ノ威名日ニ盛ナルヲ妬ミ任期滿タサルニ太守ノ任ヲ奪ヒ部下ノ兵士ヲ解カシメントスコ、ニ於テ「シーザー」大怒紀元前四十九年兵ヲ卒テ羅馬ニ入り「ばんべい」ヲ埃及ニ殺ス「しせる」けいとを「亦々死シ」シーザー「獨リ政權ヲ握リテ農商ヲ勵マシ土木ヲ起シ且ツ地方制度ヲ定ム二年ノ間ソノ爲ス所偉大ナリシモ紀元前四十五年遂ニ「ぶるたす」カシメス」ノタメニ元老院ニ於テ刺サル

◎羅馬帝國ノ成立及當時ノ版圖ヲ示セ

「シーザー」ノ死後羅馬再ヒ亂ル時ニ「をーがすたす」あんどふト「れびたす」ノ三人第一二三頭政治ヲ立ツ久シカラスシテ「をーがすたす」ノタメニ「れびたす」ハ逐ハレ「あんどふト」ハ埃及ニ於テ埃及女士「くれをはとら」ト共ニ殺サレ「をーがすたす」其領地ヲ收ム紀元前二十七年元老院勸進シテ至尊ノ号ヲ上ルコレヨリ共和政治一變シテ帝政トナル「をーがすたす」元老院及共和政体ノ有司ヲ存シ敢テ變更セス然レトモ全ク政務ヲ左右シ且人民モ遊事ニ心ヲ傾ケ政治ニ注意セス國運太平ヲ致セリコノ時ヤ羅馬ノ權勢旭ノ如ク其版圖モ頗ル廣ク北、英吉利海濱ヨリ南、亞弗利加大沙漠ニ至リ東「ゆーふれ

一ツ「河ヨリ西太平洋岸ニ連リ葡萄牙、西班牙、佛蘭西、白耳義、和蘭西部「ばーでん」ラるでんぶるく」「ばーりあ」瑞西、伊太利、奧太利、西部、葡萄牙「くるあしあ」「すらはあ」希臘、小亞細亞「しりあ」「ばれすたいん」埃及「もろつこ」等諸洲總テ羅馬ニ屬セリ

◎羅馬文學ノ最盛時代ハ誰レノ時ソ

紀元前百四十年ノ頃希臘ヲ征服シテヨリ其文明羅馬ニ入ル就中「をーがすたす」帝ノ時コソ其最盛時代ニシテ文學者續々輩出シ所謂「らちん」文學ノ起ルコノ時ナリ

◎耶穌基督ハ誰レノ時誕生セシヤ

耶穌紀元一年ニ先ツ「四年」をーがすたす「帝」ノ時ニ當リ亞細亞、露馬領、猶太國「べすれへむ」ニ耶穌基督ト生ル

◎耶穌教傳播ヲ略述セヨ

耶穌基督ハ汲々トシテ布教ニ從事シ大ニ人民ノ歸服ヲ受ク時ニ社會ニ大勢力アル「ふありし」教徒ヲ非難セシテ以テ遂ニ怨惡ヲ受ケ猶太法庭ニ於テ十字架上ニ磔殺サル是レ紀元第三十二年「たいべりあす」在位ノ間トス然ルニ基督死後門人等ハ益々布教ニ力



メ「ねろ」だいをくれしあん「両帝ノ時耶蘇教徒ヲ捕ヘテ死刑ニ處ス經典會堂ヲ毀ツ其後「こんすたんちん」帝ニ至リ自ラ耶蘇教信者トナリ終ニ國教トナス是レヨリ破竹ノ勢ヲ以テ大ニ弘行セリ

(七十七)

◎耶蘇教傳播ノ餘響ヲ問フ

耶蘇教傳播ハ獨リ人間ノ信仰、生活、道德ニ影響セシノミナラス智力ノ發達ヲ助ケ博識ナル哲學者神學者ヲ輩出セシメタリ

(八十七)

◎羅馬衰微ノ原因ヲ擧ケヨ

羅馬ノ衰微シタルハ數個ノ原因アリ(一)人民安逸ニ流レ武ヲ忘レ且ツ人民卑屈ニナリシ(二)希臘末世ノ文學羅馬ニ入り道德ノ廢レタル(三)都ヲ羅馬ヨリ「こんすたんちのふ」ニ移シタル(四)兵士ノ專横ナリシ(五)府民權ヲ總テノ人民ニ與ヘ羅馬人ハ昔時ノ區別及尊嚴ヲ失ヒタル(六)新舊兩教徒ノ争ヒ等トス

(九十七)

◎近世歐洲諸國制度國狀ノ相似タル所以ヲ問フ

近世歐洲諸國ノ制度國狀ノ相似タル者ハ總テ法律習慣言語宗教等羅馬ノ文明ヲ受ケタル

ガ故ナリ

(中世史)

(十八)

◎新人種トハ何種族ヲ云フカ

歐羅巴ノ上古史ヲ充タスハ「ありあん」人種ノ一族「くりーて、らてん」人ノミ然ルニ中世ニ至リ「ありあん」人種ニ屬スルモノ則チ「せるつ」人「ちゆとん」人「すれーぶ」人「或ハ「ら、はみやん」ト稱ス」ヨノ三大族ヲ稱シテ新人種ト云フナリ

(一十八)

◎中世史ハ何人種ノ事蹟ヲ記セルモノゾ

中世史ハ「ちゆとん」則チ日耳曼ノ蠻族ト「らてん」及「せるつ」ノ兩原素抱合スル事蹟ヲ記スルニ過ス

(二十八)

◎羅馬帝國ノ東西ニ分離セシ時及ツノ王名ヲ問フ

紀元四百十年羅馬帝「せおとしあす」一世ノ没スルヤ其二子全帝國ヲ二分ス西羅馬ニ「はのりあす」君臨シ東羅馬ニ「あるかぢあす」臨メリ



◎羅馬ノ兵權をす族ニ歸セシ源因ヲ問フ

紀元三百七十九年「せかどしあす」一世西班牙ヨリ入テ羅馬帝トナル帝始メ「をす」族ノ進冠ヲ制シ國內ヲ鎮定セリ尋テ「をす」族人ヲシテ羅馬ノ兵伍ニ列セシム爾來羅馬ノ兵權ハ「をす」族ノ掌中ニ歸シ羅馬ノ東西ニ分カレシト「をす」ノ首長「あらりつく」ナルモノ族兵ヲ卒テ伊太利全國ヲ蹂躪スルニ至ル

◎西羅馬滅絶ノ所以ヲ示セ

紀元四百五十一年西羅馬ハ蒙古人ノタメ攻撃サル西羅馬償金ヲ出ス幾クモナク「ばんだる」族ノタメニ市府ヲ掠奪サル然レモ尙ホ殘喘ヲ存セリ紀元四百七十六年ニ至リ元老院ハ蠻人ノ首長「すとあせる」ノ請ヲ入レ帝ヲ置クノ必要ナキヲ公示シ「ろみゆらす、かーがすたす」帝ヲ廢シ「をどあせる」ヲ貴族トシ寺院ノ長トス是ニ於テ西羅馬全ク亡ブ

◎東羅馬ノ狀況ヲ略説セヨ

羅馬ノ東西分離シテ以來西羅馬ハ久シカラスシテ滅亡セシモ東羅馬ハ爾來千年間東帝

國希臘帝國或ハ「ばいざんちあむ」帝國ト稱シ繼續セリ然レトモ此時歐洲ニ諸新國勃興セシヲ以テ唯々有無ノ間ニ知ラレシノミ

◎「じやすちにあん」帝治世中主要ナル事件ヲ問フ

紀元五百二十七年ヨリ同五百六十五年マテ「じやとちああん」帝東羅馬ニ君監スコノ間頗ル隆盛ヲ致ス帝ハ大ニ土木ヲ起シ「こんすたんちのぶる」ノ有名ナル「そふひや」會堂ヲ創設シ又々完全ナル法律ヲ編纂ス所謂羅馬法コレナリ實ニ英國ノ他歐洲各國法律ノ基礎トナレリ

◎「しやーれまん」帝ノ目的及事業ヲ記セ

西羅馬帝國ノ潰裂ニ赴クノ時「ふらんく」族最も強盛ニシテ其長「くるびと」ナルモノ紀元五百七年ニ巴理ニ都ス子孫相續ク百數年國王ハ有名無實ニシテ宰臣權ヲ專ラニスツノ後宰臣「ちやるす」ノ子「べひん」ニ至リ自ラ代リテ王トナル其子「しやーれまん」繼テ位ニ上リ在位四十六年其間戰爭遠征ヲナス大小五十三回日可曼、佛蘭西、西班牙等ヲ征服ス帝ノ冀圖スル所ハ主トシテ羅馬ヲ再興スルニアルノミ而シテ耶蘇教ヲ保護シ紀元



八百年法王ヨリ西羅馬皇帝ノ冠位ヲ與ヘタル

◎「しやれまん」帝没後西羅馬ノ景況ヲ示セ

「しやれまん」帝銳意以テ西羅馬ヲ隆盛ナラシメシモ没後子孫相争ヒ帝國遂ニ分裂シテ東ふらんく(日耳曼)西ふらんく(佛蘭西)及以太利ノ三王國トナレリ

◎「こんすたんちのぶる」ノ没落ヲ問フ

第十五世紀ノ中半小亞細亞ノ一洲ニをどまん帝國アリ「まはめつと」二世ソノ王タリ東羅馬ノ衰狀ヲ見之ヲ陷レント欲シ千四百五十三年兵ヲ卒テ「こんすたんちのぶる」ヲ攻圍ス羅馬帝「こんすたんちん、ぱりをろがす」之ヲ防キ大戰五十三日城遂ニ陥リ羅馬帝亦々戰死シ東羅馬茲ニ至テ滅ブ

◎まはめつと教傳播ノ狀況ヲ記セ

まはめつとハ回教ノ始祖ニシテ紀元五百七十年ノ頃亞刺比亞ノ「めつか」ニ生ル年四十ニ至リ深山ニ隱栖シ遂ニ自ラ公言シテ曰ク上帝余ニ命シ亞刺比亞全國ノ宗教及風俗ヲ改良センコトヲ以テスト而シテ其經典ハ「こら」ト稱シ隨時記録セシモノニシテ始メテ信

(八十八) (九十八)

(十九)

徒トナリシハ妻ト親戚ノ數人ニ過キス數年ノ後亞刺比亞ニアル所ノ諸人種ヲ征服シ叫ソテ曰ク劔ハ天堂及地獄ノ鍵ナリト乃チ白刃ヲ揮フテ萬民ニ迫リ其信徒トナス亞刺比亞ノ地一人トシテ「まはめつと」教徒タラサルナキニ至ル更ニ其宗旨ヲ國外ニ擴布セントセシカ偶々熱病ニ罹リ六百三十二年「そちな」府ニ於テ死ス「まはめつと」已ニ没シタルモ「さらせん」人則チソノ教徒ハ進ンテ歐洲全土ヲ征服セントシタリシモ「ふらんす」ノ「ちやるす、まーてる」ノ爲メニ破ラル

◎「ちやるす、まーてる」ノ事業ヲ問フ

「さらせん」人ノ將「あぶどねる、らーまん」「まはめつと」教ノ兵ヲ卒テ「ふらんく」人ノ地ヲ征セントシ「ろいあ」ニ來ルソノ向フ所風靡セサルナク歐洲全土將ニ席卷セラレントス此ノ危急ノ時ニ當リ「ふらんす」ノ「ちやますまーてる」基督敎國ヲ保護セントシ兵ヲ集メテ「さらせん」軍ト「どうるばーといー」ノ間ニ劇戰スルコト七日遂ニ「さらせん」軍大敗ス時ニ紀元七百三十二年ナリ

◎英吉利ノ起原ヲ問フ

(一十九)

(二十九)



英吉利ノ原人ヲ「ぶりどん」ト稱シ「けると」人ノ一タリ久ク野蠻ノ状態ニアリシガ紀元前五十五年「シーザー」ノタメニ征セラレ羅馬ノ屬國トナルソノ後一時羈絆ヲ脱セシモ紀元第一世ノ終リ羅馬帝「とみしあん」ノタメニ再ヒ版圖トナリ第五世紀ノ終リニ至ルマテ其配下タリヨノ時ニ當リ英國ノ北部ニ「ピクト」ト云ヘル種族アリ慥悍ニシテ屢來寇シ「ぶりどん」ヲ苦シム「ぶりどん」人「さくそん」則チ耳日曼人ニ來援テ乞フ是ニ於テ「あんぐろ」族「ヒセー」族ト大學シテ英國ニ渡航シ「ピクト」「すこつと」族ヲ追放シ茲ニ居住ヲ定ムコレヨリ英國ノ文化ハ忽チ退歩シ第七世紀ノ頃ハ國內分立シ第九世紀ニ至リ「うねすせつくと」王「ぬくばると」ニ一統セラル

② 現時ノ英吉利ハ何人種ニ屬スルカ

現時英吉利ハ「さくそん」種族ニ屬スルハ世人ノ云フナリ

③ 「さくそん」王統ノ基ヲ開キシハ誰レゾ

第九世紀ノ始メ英國ノ分離中主ナルモノ七國アリノ一タル「うねつせつくと」王「ぬくばると」遂ニ全國ヲ一統ス實ニ紀元八百二十七年ニシテ「さくそん」王統ノ基ヲ開ク

(四十九)(三十九)

④ 英國まぐなちやたー發布ノ時王名及其所以ヲ示セ

紀元千九百九十九年「ぶらだせねつと」王統第三代ノ「じよん」王ハ無賴ニシテ宴樂ノミヨレ事トシ曾テ治國ノ道ヲ治メス即位ノ始メ佛國ト戰テ多クノ領地ヲ失ヒ加フルニ人民ニ對スル苛酷稅ヲ重フスコレヲ以テ人民塗炭ニ苦シム遂ニ貴族平民相合シ王ニ迫リ千二百十五年「らんにみーと」ノ大野ニ於テ大憲章ニ証認セシム蓋シ大憲章ハ通篇六十餘條ニシテ條々皆ナ人民ノ自由及權理ヲ保護スルヨリ成立シ現時ニ於ケル英國憲法ノ神髓ヲナスモノタリ

(五十九)

⑤ 薔薇戰爭ノ原因及結果ヲ概示セヨ

「ぶらんだせねつと」統ニ代リテ「らんかす」とる「家」ノ「へんり」四世王位ヲ得ソノ後六世ニ至リ千二百廿二年ヲ以テ位ニ即カントス此時「よく」公「りちやると」ナルモノアリテ自ラ王位ヲ受クヘキ正當ノ權利アリト主張シ兵ヲ擧ク「よく」公ノ軍ハ白薔薇「らんかす」とる「軍」ハ赤薔薇ヲ以テ徽章トス是ヲ稱シテ薔薇戰爭ト云フ此ノ戰千四百五十五年ヨリ同千四百八十五年マテ前後三十年間繼續セリ英國貴族ハコレガタメ家系殆シド斷滅

(六十九)



セリト云フ而シテ結局、よく「軍勝ヲ得千四百六十一年」りちやると「ノ子」ぬとわると「  
四世即位ス爾後廿四年三代」よく「統緒ケリ」

◎日耳曼國ノ起原及變遷ヲ問フ

紀元八百四十三年「べるたん」ノ條約ニヨリ「しやれまん」帝國ハ日耳曼佛蘭西以大利ノ  
三國ニ分ル日耳曼ハ「るい」コレヲ統轄セリ「るい」ハ「かるびんじあん」統トス而テコノ  
統ハ永ク繼續スル能ハス且ツ其間大權下ニ移リテ「さくそん」公「ふらんこにあ」公「さ  
りんじあん」公「ばよりあ」公「すわびあ」公ノ五大者大ニ威ヲ振フるい第四世ノ崩スル  
ヤコノ五諸侯相議シ「ふらんこにあ」公「こんらつと」ヲ選舉シ王トナス「こんらつと」一  
世ト稱ス是レヨリ日耳曼ノ國体一變シ選舉王國トナル時ニ紀元九百十一年ナリ「こん  
らつと」第一世ノ歿スルヤ「さくそん」公「へりん」位ニ即キ「へんり」一世ト云フ子孫相  
承ケ王タルコト五世百餘年ニシテ日耳曼ヲシテ歐洲ノ強國タラシメタリ千二百十四年  
「さくそん」王統絶ヘテ「ふらんこにあ」公「こんらつと」二世即位ス爾來四帝百〇一年マ  
テ君監セリ千二百一十五年「さくそん」公「ろてーる」王位ヲ踐ム幾クモナクシテ歿ス「は

「ふねんすとうふねん」統ノ「すわびあ」公コレニ代テ王位ヲツグ「こんらつと」三世ト  
稱スソノ後甥「ふれてりつく」次クコノ時以太利反シテ獨立國トナル相繼ク「四帝百十  
六年」タリ其晩年ニ當リ系嗣ナク國內大ニ亂ル年アリ遂ニ千二百七十三年「はぶすばる  
く」ノ「るーどる」選舉サレ王トナル其後皇帝選舉法ヲ改革シ七諸侯其領内ニ於テ獨立  
ノ全權ヲ振フニ至レリ

◎百年戦争ノ原因及結果ヲ略述セヨ

佛國ニ「ばろは」統ノ「ふひりつと」六世即位セシ時英國ニ於テハ「はとわると」三世王位  
ニアリ其母ヲ佛王「ちやるす」四世ノ妹トス此ニ於テ「はとわると」ハ佛王ノ位ヲ得ルヘ  
キモノナリトシ「ふひりつと」ヲ廢セント欲シ大軍ヲ卒テ佛國ニ進入ス時ニ紀元千三百  
三十八年トス爾後百餘年相續ケリ百年戦争則チコレナリ最終ノ戰ニ於テ英國ハ「かれ  
ー」ノ外總テ佛國ノ領地ヲ失ヘリ

◎百年戦争ノ内大戦ノ地ヲ舉ケヨ

百餘年ノ間斷續相接シ互ニ勝敗アリ今其内戦争ノ大ナルモノヲ舉クレハ千三百四十六



年「くれしー」ノ戰(英軍勝利)同五十六年「ばあちあ」ノ戰(英軍勝利)同六十九年「あつくていーん」ノ戰(佛軍勝利)千四百十五年「あぢんくーる」ノ戰(英軍勝利)同二十八年「おるれあん」ノ戰(佛軍勝利)同五十三年「かすちん」ノ戰(佛軍勝利)此ノ「かすちん」戰ヲ最終ノ役トス

(百)

◎百年戦争ノ佛國ニ及ホモシ影響ヲ問フ  
百年戦争ハ實ニ佛國ノ發達ヲ害セリ然レハ佛國王權ノ伸張ハコレヨリニシテ内治ノ稍整ヒ「ばるがんぢ」其他ニ領地ヲ擴メ威ヲ近隣ニ振ヘリ

(一百)

◎らむばるぢ同盟トハ何ソヤ  
第十二世紀ノ半頃伊太利ニアル「べあす」「びさ」「ふるーれんす」「せのあ」等ヲ始メ其他ノ市府漸ク勢力ヲ得テ殆ト獨立國ダラントス然ルニ互ニ争ヒテ生シ相敵視スルニ至ルヲ以テ小市府ハ日耳曼ニ保護ヲ受ク己ニシテ是等ノ市府ハ日耳曼ノ保護ヲ受クルノ不利ナルヲ覺リ互ニ結ンテ一大同盟ヲ作り日耳曼ノ干渉ヲ除クコノ同盟ヲ稱シテ「らむばるぢ」同盟ト云フ日耳曼帝壓服セントシタルモ能ハス遂ニ市府ノ獨立ヲ許ス

(二百)

◎封建制度ノ起原ヲ略説セヨ  
中世史ニ於テ最モ顯著ナル一種奇異ノ者ハ封建制度ナリ此ノ制度ハ第十一世紀ノ頃日耳曼人ノ征服セル各地ニ行ハル初メ日耳曼人ノ國土ヲ略取スルヤ酋長ハコレヲ三分シ自ラ其一ヲ取り一ヲ酋長ヲ助ケ戦争ニ從事シタルモノ、功勞ニ酬ンタメ世襲産トシテ與ヘ他ノ一ヲ降附者ニ與ヘ貢物ヲ徴スルヲ例トセシム而シテ之ヲ受ケタルモノハ酋長ト雖モ縦ニ奪フ能ハス實ニ守産法ニヨリテ土地ハ私有スル權ナク所有主ノ允許アル間コレヲ持續スルノミ且ツ臣屬元役ヲ執リ租税ヲ出シ戰アレハ軍ニ從ハサルヘカラス此ノ如キ地ヲ稱シ食邑ト云フ是レ封建制度ノ起原ナリコレノ制ハ始メ「ふらんこみや」ニ起リ日耳曼ニ行ハレ中世治國ノ要ハ主トシテコレノ制度ニ基クモノトス

(三百)

◎封建制度ノ結果ハ如何  
封建ノ制度タル野蠻攻代ノ時代ニ於テ護國禦寇ノ利益アル甚クシギモ世ノ進歩ト人民ノ自由ヲ害スル亦大ナリ

(四百)

◎封建制度ヲ漸次顛覆セシ所ノ原因ヲ擧ケヨ



封建制度ヲ漸次顛覆セシ所ノ勢力ハ王權及市府ノ權僧侶ノ權ヨノ三者トス而シテ尙ホ十字軍火藥ノ發明及ヒコレニ次ケル戰法ノ變革貿易ノ擴張並ニ一般智識ノ發達進歩ニレナリトス

(五百)

◎義騎制度トハ何ソヤ

封建制度行ハレルニ至リ貴族ハ驕恣ニシテ老幼婦女ノ凌辱ヲ受ルコト甚クシ此ニ於テ義俠ノ士時弊ヲ救濟セント欲シ馬ニ跨リ諸方ヲ巡行シ老幼婦女ヲ害スルモノヲ捕フ之等ノ士ヲ「ないど」ト稱スコノ名十字軍ノ時ニ勳功ヲ奏シタルヲ以テ遂ニ爵號トナレリ而シテ「ないど」ダラントスルモノハ武事ニ熟練シ禮義ヲ修メ正直仁慈ノ徳ヲ備ヘサルヘカラス

(六百)

◎十字軍ノ目的及景狀ヲ略記セヨ

「ばれとたいん」ニ在ル「せるざれむ」府ハ基督ノ墳墓ノアル所ニシテ歐洲ノ耶穌教信徒ハ巡禮者トナリ參詣スルヲ例トセリ而シテ此地ノ「さらせん」人ノ手ニアリシトハ巡禮者ハ能ク厚遇サレシカ其後十一世紀ノ中葉土耳其人が小亞細亞及「しりあ」ヲ征服スル

ニ及ヒ耶穌教徒ハ其住民ナルト巡禮者ナルトヲ問ハス最モ殘酷ナル待遇ヲ受ケ「まほめつと」教徒ニ嘲侮サレルニ至ルコ、ニ於テ歐洲西部ノ人民大ニ怒リ且ツ「ばいどる、はいみつと」ナル一僧土耳其人ノ無禮ヲ目撃シ羅馬法王ニ訴ヘ次テ四方ニ遊説シ土耳其ヲ征スヘキヲ勸ム法王即チ諸國ニ謀シテ千九十五年佛國「へれまん」とニ大會ス集マルモノ數ヲ知ラス法王ノ土耳其征討ヲ述フルヤ總テコレニ同意シ年ノ老幼ヲ問ハス性ノ男女ヲ問ハス奮テ從軍ヲ願ハサルナシコ、ニ於テ千九十六年第一十字軍大舉靈地ニ向テ發ス苦戰數次遂ニ靈地ヲ占領シ土耳其兵ヲ屠殺ス乃チ茲ニ基督敎國ヲ立テ「ぶいゐん」侯「ぶとふれい」靈地保護者ノ任命ヲ受ケ一年ニシテ歿シ其親族繼キ子孫世々コノ地ヲ支配セシカ千八百八十七年埃及王ニ覆滅セラル千四百四十五年土耳其人再ヒコノ地ヲ奪ヒ耶穌教徒ヲ殺ス靈地ノ耶穌教徒援ヲ歐洲ニ求ム歐軍敗績スコレヲ第二十字軍トス千八百八十七年埃及王ノタメニ覆滅セラル、ヤ第三十字軍起ル然ルニ英王「りちやるど」一世ト佛王「ふひりつふ」四世トノ間不和ヲ生シタルヲ以テ休戰ヲ約シテ退軍セリ以下尙ホ第四第五第六第七第八ノ十字軍ヲ企テシモ或ハ全ク靈地ニ向ハス或ハ著シキ



(七百)

結果ナクシテ廢メリ而シテ靈地ハ遂ニ回教徒則チ土耳其人ノ手ニ歸シソノ目的ヲ達スル能ハサリキ

◎十字軍ノ歐洲ニ與ヘタル影響如何

十字軍ハ遂ニ目的ヲ達スル能ハサリシモ歐洲ニ與ヘタル影響ハ實ニ大ナリ其主タルモノハ十字軍ノ起ルヤ歐洲列國協同一致シテ從事シタルヲ以テ相知ルコト昔日ニ倍シ協和ノ情ヲ發セシメタルコト歐亞間ノ交通ヲ増シ商業ヲ發達進歩セシメタルコト及ヒ封建制度并ニ貴族政治ノ勢力ヲ減殺セリ且ツ廣ク他國人ト交際シタルカ故ニ志氣寛大トナリ智識大ニ進歩セリ

(八百)

◎「パイ」とる、へるめつと」トハ何人ツ

「パイ」とる、へるめつと」ハ佛國「あみだん」ニ生レ小壯ノ時ハ軍人タリシモ遂ニ世ヲ棄テ僧トナリ「せるされむ」ヲ訪フテ古耳古人ノ亡狀ナルヲ目撃シ慨然トシテ余ハ古耳古人ヨリ聖墓ヲ回復スルノ命ヲ受ケタリト深ク信シ羅馬法王ニ訴ヘ且ツ四方ヲ歴遊シテ演説スルヤ熱心且ツ悲壯ナリ「パイ」とる」ハ顔色蒼衰禿頭跣足繩ニテ粗服ヲ纏ヒ十字架

(九百)

ヲ握リ驢馬ニ乘シテ行ケリ實ニ第一十字軍ノ前鋒ハパイ」とるソノ將タリシナリ

◎暗黒時代トハ何世紀ヨリ何世紀マテ云フカ

上世ニ於テ赫々タル光輝ヲ放チシ所ノ希臘羅馬ノ文明ハ中世ノ初ニ於テ殆ント其狀跡ヲ絶テリ爲メニ第五世紀ヨリ第十一世紀ノ末葉マテハ蒙昧ノ域ニ退歩セリコノ間ヲ稱シテ暗黒時代ト云フ

(十百)

◎中古文明ノ退歩セシ原因ヲ問フ

羅馬帝國ノ時代ニハ高度ニ達シタル文明ノ第五世紀ノ頃ニ至リ忽然退歩シタルハ實ニ怪驚スヘシ羅馬帝國ノ晩年ニ至テハ世人文學ヲ崇尚スルヲ知ラス且ツ之レニ加フルニ「ちゆーとん」蠻族ハ文學ヲ蔑視シタルヲ以テ一朝「ごーる」西班牙伊太利ニ國ヲ建ツルヤ羅馬人及羅馬文明ノ化育ヲ受ケタル羅馬外領ノ人民ノ如キモ忽チニシテ蠻民ニ薰染シ不文無學ノ憫ムヘキニ至レリ

(一十百)

◎中古學問ノ廢滅セシ所以ヲ示セ

學問ノ廢滅セシ原因一ナラスト雖モ主トシテ當時歐洲西部人民ノ言語ノ大ニ變化シタ



ルニヨラスンバアラス「ちゆーどん」蠻族ノ侵入以來二百餘年ノ間羅匈語ヲ用ユルモノ少ク且ツ方言ノ異同諸國ニ起リ羅馬種語ノ更ニ當今ノ伊太利語佛蘭西語西班牙語ト變セシ如キノ原因ナリ

◎中世時代書籍ハ何語ヲ以テ記セシカ

當時ノ書籍ハ總テ羅匈語ヲ以テ記セリ故ニ羅匈語ヲ知ラサレハ學問ニ志スモ理解スル能ハサリシナリ

◎中古大學ノ有名ナルモノヲ舉ケヨ

第十二世ノ初メニ巴理大學顯ハレ第十三世紀ニ「けんぶりつち」大學創立セラレ又タ第九世紀ノ頃英國「をつくす、ふをーど」大學アリ千二百一年ニハ學生ノ數三千余アリ尚ホ「ばでゆーあ」「つーる」「ばろんな」等ノ諸校アリ

◎羅馬法王ノ權力消長ヲ列記セヨ

第五世紀ノ半頃西羅馬ノ滅亡スルヤ羅馬法王ハ依然トシテ羅馬ノ舊都ニアリテ上ニ帝王ナク法王ハ國中ニ最高地位ヲ占メ且ツ學問文藝ニ通曉セルハ唯タ僧侶ノミナルヲ以

(四十百)

(三十百) (二十百)

テ僧侶ハ一般特ニ法王ハ大ニ人民ニ尊敬サレタリ第六世ノ中葉東羅馬ノ以太利ヲ恢復スルヤ大守ハ羅馬府ニ居住セス「らべんな」ニアリタルヲ以テ益々法王ノ權力ハ増長セリ然レトモ道德上ノミニシテ世俗ニハ關係セサリキ然ルニ第八世紀ニ至リ佛王法王ノ請ニヨリ「ろむばるど」人ヲ以太利ヨリ放逐シタルモ「らべんな」ノ地ヲ法王ニ寄進ス此ノ時ヨリ法王ハ漸ク俗事ニ干涉セリ爾後「しやーれまん」帝國瓦解シ各國王權ノ衰フルニ及ヒ法王ハ政治上ノ一大權力ヲ掌握スルニ至ル千七十三年「ぐれごり」七世法王トナルヤ法權ヲ擴張シ歐洲全土ヲ支配セン「チ企テ」日耳曼帝ニ屬セル法王任叙ノ權ヲ回復シ遂ニ日耳曼帝「へんり」四世ヲ破門ス「へんり」國內ニ叛徒ノ續々起ルヲ以テ法王ニ哀ヲ求メ破門ノ刑ヲ報サル以後數代ノ法王專ラ法權ノ擴張ヲ勉メ千二百年ノ初メ「いんのせんと」三世法王タルノ時ハ歐洲各國ノ帝王モ法王ノ命令ニ遇フ毎ニ震怖セリ然ルニ法權ノ強大ヲ致セシヨリ各法王漸ク驕慢心ヲ生シ私慾ヲ逞フシ加フルニ帝王トノ葛藤ニ敗ヲ取リ千三百年頃ヨリ法權退歩シ始メ殊ニ千四百年代ニ及ヒテハ耶蘇教義ノ非理ニ流レタルヲ説キ僧侶ノ品行德義腐敗シ法王ノ歐洲諸國ニ對スル所置ヲ非難スルニ



(六十百)五十百)

至リ歐洲全土ヲ轟徹シタル法王ノ命モ以太利外ニハ行ハレサルニ至レリ

◎第十五世紀トハ何年ヨリ何年マテニシテ何年間ナルカ

紀元千四百一年ヨリ千五百年マテ一百年間ヲ稱シテ十五世紀ト云フ

◎第十五世紀ニ學術再興ノ期アリト云フ其概況如何

中古時代ノ前六百年ハ羅馬ノ文明跡ヲ絶チ蠻民跋扈シテ天下暗黒トナル然ルニ葡萄牙人航海上發見ニ先鞭ヲツケシヨリ全歐ノ人民悉ク航海ニ熱心シ新地ヲ發見セント欲セシト同時ニ又大ニ智力ヲ喚起セリ而シテ學術再興ノ兆ハ第十一世紀ノ終リヨリ「こんすたんちのふる」府落城シテ希臘ノ文學者往々以太利ニ移住セシヲ以テ人心啓發ノ基ヲナシ歐洲ニ傳播シ且ツ印刷術ノ發明ハ著書ニ大至便ヲ與ヘ學術再興シテ速ニ進歩セリ

(近世史之部)

(七十百)

◎第十六世紀ノ間ニ生シタル重ナル事件ヲ記セヨ

第一、千四百九十一年查祿斯第八世ノ「あん」ト結婚シ佛國ヲ統一ニ爲スヲ始メ成就セシ

第二、千四百九十二年「虞」レナダ「及」ビ「無」ウル「兩國」亡ビ西班牙王國ノ成立セシ

第三、同年ニ亞米利加發見アリ商蘭世界ニ大變化ヲ及ボセシ

第四、千四百九十四年ニ伊太利戰爭發シ歐洲諸國ニ重大ナル影響ヲ及ボセシ

第五、千五百八年「羅」ム「の」一「る」「麻」いける、安せろ「維」ニ在リテ畫學ニ從事シ從來ノ面目

ヲ新ニセシ

第六、千五百十七年宗教改革ノ其端ヲ發セシ

第七、千五百二十一年「麻」せらん「ノ」地理上ニ就キ人間ノ思想ヲ匡正シタリシ

第八、千五百三十年「固」ばるふかす「學問」上ニ新時期ヲ造リタル「等」之ナリ

◎今世々界ノ有様ハ如何

十字征伐ノ大事アリテ商業及ビ冒險及ビ征伐ノ精神次第ニ活潑トナリ東洋旅行アリテ地球ニ就テノ智識ヲ増シ羅針盤ノ發明ニヨリテ航海者ノ心ヲ強クシ大ナル都府ハ處々

(八十百)



(九十百)

ニ起リ自由商業製造等ノ中心ヲ作り「昆すたんちのーぶる」ノ没落ハ歐洲西部ニ向テ希臘文學ヲ散布シ從リテ歐洲西部ハ希臘學者ノ誨ニ由リ文運勃興直チニ歐洲中ニ大學ノ數四十二及ヒ數多ノ學生新思想ヲ養生シ之ヲ人民中ニ領與シタリ

◎亞米利加及ヒ「おーすたらりや」發見セシハ誰ナルヤ又何時代ニアルヤ

亞米利加發見ハ千四百九十二年伊太利國「せのあ」府「くりすとふあー」ころんばす「ナリ

おーすたらりや發見千六百六年葡萄牙人「るいヴぬい」でとーる「ナリ

◎亞米利加發見ノ直接ノ結果

商業的興業上ニ一大影響ヲ及ボシ貴金屬ヲ増シ金銀鑛ノ發見益々盛ニ其他數多ノ發見相續イテ起レリ

◎亞米利加發見ノ爲メニ大利ヲ博シタ國ハ何國ナルヤ

金銀ノ產地ナル「めさしこ」及ビ「ペリうー」ニ地方ヲ所有シタル西班牙及ビ貴金屬護謨及ビ寶石等ノ産ニ富メル印度洋諸島及ビ諸海岸ヲ有セシ葡萄牙ノ兩國ナリ

(一廿百) (十二百)

◎此發見中佛蘭西史上ノ要件ハ如何ナルモノナルヤ

路易第十三世ノ治世中「ふらんす」王國ノ結合ナリ

◎十六世紀ノ初メニ於テ伊太利史ハ如何

伊太利諸洲ノ間ニ猜忌、戰爭、法皇ノ權力益々増加シ政治上ニ迄力ヲ伸ハスニ至リタル一是ナリ

◎當時文學社會ニ名ヲ著ハセシ人ハ何人カ

希臘ノ「いらすます」拉典ノ「かーぢなるべんばー」こみねす「伊太利ノ「ありをすとー」「まさあヴるりー」「ぐういつくんあーぢ」等ナリ

◎當時歴史ノ要部ヲ占メタル高僧ハ誰ナルカ

西班牙國ノ王ノ宰相「かーぢなる、さしめねす」及ビ英國ノ「へんりー」第八世ノ嬖人「かーぢなる、うーるせー」等ナリ

◎伊太利ニ於テ技術文學ノ極盛ニ達シタルハ何法王ノ時カ

せんとびーたー教會堂ヲ建築シタル「めでん」家ノ法王十世ノ時ニシテ實ニ大勢力ヲ振

(六廿百) (五廿百) (四廿百) (三廿百) (二廿百)



(七廿百)

④「まるちん、るーさー」トハ如何ナル人ゾ

「さくそああん」ノ「あうがすむあやん」派ノ僧ニシテ「ういつらんばーぐ」ニ於テ神學ノ講師タリ而シテ其教エル所ハ「せいんとぼーるせいんとあうぐわすちん」ノ説キシ所ノ神惠論ナリ

⑤近世ニ於テ舊來ノ面目チ一新スルニ最モ力アルモノハ何カ

第一火藥ノ發明第二印刷術ノ發明是ナリ

⑥火藥發明ノ及ホシタル影響ヲ問フ

中古武ヲ磨キシ習止ミテ彈丸放發ノ術ヲ講スルニ至リ戰法變化シテ貴族ノ勢力ヲ衰ヘシメシハ皆是レ火藥發明ナリ

⑦印刷術ノ發明ハ何年ナルヤ又何人ノ手ニ出テシヤ

印刷術ノ發明ハ千四百五十六年「面ツ」ノ「架つてんばるぐ」ノ始メテ發明セシモノナリ

⑧印刷術ノ發明ノ及ホシタル影響ヲ問フ

(一卅百)(十三百) (九廿百)(八廿百)

歐洲人民ノ智識速カニ其境界ヲ廣ムルニ至リシハ皆此ニ由ルナリ

⑨顯理ノ航海ノ目的ハ如何

亞弗利加ノ海岸ヲ搜索シテ東印度ニ達スルノ航路ヲ開クニアリ

⑩「那人」海角ヲ好望海角ト名ケタル原因ハ如何

約翰王印度海路ヲ發見シ得ベキ望ヲ生セシ故ニ名ケルナリ

⑪東洋商業權ノ葡萄牙人ノ掌握ニ歸シタル原因

葡萄牙人速ニ殖民地ヲ「麻らばー」海岸ニ起シ直チニ歐洲ニ航セシ故ナリ

⑫伊太利戰爭ノ起元ハ如何

千四百九十四年佛人伊國ニ侵入セシカ爲ナリ

⑬此戰爭ノ目的ハ如何

權力ノ平均ニ在リ

⑭此戰爭ノ結果ハ如何

其結果ハ歐洲諸國ノ間ニ邦系ナル新制度起リシナリ

(七卅百)(六卅百)(五卅百)(四卅百)(三卅百)(二卅百)



- ◎ 路易王ノ終ニ連合諸國ト知識ヲ結ブニ至リシ原因  
路易王凶方ニ敵ヲ受ケ堪ユル能ハザリシ故ナリ
- ◎ 查祿斯第五世時代ヲ分チテ二トナス其名ヲ問フ  
第一查祿斯及ヒ弗らんしすノ争ヒ曰ク宗教改革ノ乱是ナリ
- ◎ 查祿斯ト弗らんしすノ争ノ原因ハ何ナルヤ其結果如何  
日耳曼帝位ノ欠クルヤ「弗らんしす」是ヲ希望シタリシカ查祿ニ破ラレシヨリ起リシナリ而シテ其結果ハ歐洲ニ血ヲ漲ラスノ變ヲ生ジタリ
- ◎ 英王ノ「弗らんしす」ニ抵抗スルノ準備ノ原因  
查祿斯ノ着實温篤ナルト美言ナルト同時ニ大權有ル宰相「かるぢなる、宇るしぬ」ヲシテ望ヲ屬セシメシ故ナリ
- ◎ 「弗らんしす」王ノ敗後如何  
王ハ今囚虜トナリ「麻どりつど」送ラレ獄ニ幽閉セラレシガ其辛苦ノ爲メニ身体衰ヘ查祿斯帝ハ一旦王ノ死シテ己レニ利益ノ販セザランコト恐レ其二子ヲ質トナラシメ「弗

- らんしす」ヲ赦シ且約シテ曰ク「馬るがんぢー」國ヲ日耳曼ニ與ヘヨ又後來伊太利諸洲ニ向テ其權利ヲ出張スルヲ己メヨ「弗らんしす」之ヲ諾シテ己レノ國ニ販ル
- ◎ 佛王ノ軍日帝ノ兵ト戦ヒシハ何年且ツ何ノ地ナリシヤ  
此戦争ノ起リ千五百二十五年「巴びや」ノ地ニ於テアリシ
- ◎ 其ノ戦争ノ結果ハ如何  
佛國最初ニ勝ヲ得シガ暫時ニシテ敗レ「弗らんしす」終ニ降ヲ乞フニ至ル
- ◎ 弗らんしす歸國後如何  
誓約ヲ破リ法王英王及「威汝と」ト條約ヲ整ヘ伊太利ヨリ日耳曼人ヲ追放セントシタリ
- ◎ 夫人和議ノ起元且ツ原因  
千五百二十九年ニ起リ原因ハ「弗らんしす」ハ戦ノ利ナキヲ見ルト同時ニ西王ノ許ニアル二子ヲ復サント欲セシニ由ルナリ
- ◎ 查祿斯ノ欲スル所ハ如何  
查祿斯王ノ主トスル所ハ羅馬帝國ノ再興シテ日耳曼地方ヲ以テ帝國ノ基礎ヲ立テント



スルニ在リ而ノ此意ヲ達センカ爲メニ耶蘇教會結合力ト「ちゆーとん」族ノ政治思想及  
ヒ才智ヲ使用シ常ニ日耳曼人尊重スル所ノ舊制度ヲ維持シ且ツ羅馬法王ヲ助ケテ銳意  
耶蘇教ヲ保護セリ

◎查祿斯帝ノ「智ゆにす」ヲ襲ヒシ目的ハ如何  
水上ニテ土耳其ヲ弱メント欲シタルナリ

◎查祿斯帝ノ營ム所ハ如何  
是私利ニシテ獨リ「あうすととりや家」ヲ望ムニ在リ

◎查祿斯帝ノ失敗ノ原因如何  
帝ハ中古最後ノ英雄ナリ而ルニ中古ハ己ニ過キ智識宗教等皆新ニ興リ近世精神進歩シ  
且ツ確固ナルガ故ニ在リ

◎第十六世紀ニ於テ最モ大ナル事件ハ如何  
日耳曼ニ發シタル宗教改革ノ事ヲ云フ

◎日耳曼全國ノ騷擾ヲ來タセシ原因

路ぎ一法王ノ宣告書ヲ衆人ノ前ニテ燒失セシメ以テ法王ニ抵抗ノ決意ヲ顯ハセシ爲ナ  
リ

◎如何ナル大帝ガ日耳曼ノ騷擾ヲ鎮定シ法王ノ權力ヲ恢復セント企テシヤ  
「ふあーぢなんど」及ビ「いさべら」ノ孫ナル查祿斯第五世ニシテ其領スル所ハ西班牙日  
耳曼「にーぎーらんど」「ばーぐあんで」及ビ「ねーぶる」

◎宗教改革ノ起元及ビ結果如何  
第十六世紀ノ初メニ至リ宗教論大ニ沸騰シ教會ノ實務上不法不正ノ點少カラサルコト  
法王ガ政治ニ干涉セント主張スルノ非ナルコトヲ駁シ且人々漸ク教會ニ於テ信スル所  
ノ教義及ビ教會ニ於テ實行スル所ノ儀式多ハ聖書ノ本意ニ違反スルヲ知ルニ至レリ

◎新教ノ流布シタ諸國ハ如何  
日耳曼佛蘭西瑞西英吉利蘇蘭格及ビ「すかんでいなヴいあ」ノ諸國ニ流布シタリ  
◎舊教ヲ固守セシハ何人種ナルヤ  
羅甸人種ナリ



●ふろてすたんとノ名稱ノ起元ヲ記セ

千五百二十九年日耳曼帝會議ニ於テ次期ノ宗教總會迄改宗ヲ禁シタリシカドモ「路一  
てる」ノ朋友及ビ門徒爭フテ是レニ抗論セリ故ニ新教ヲ呼デ「ふろてすたんと」ト云フ  
「ふろてすたんと」ハ抗抵論者ノ意ナリ

●新教ニ信仰ノ自由ヲ得セシメシハ何年且ツ原因ヲ記セ

千五百五十五年ニテ其原因ハ「曾りまん」攻撃ノ爲メニ維世納危ニ迫リシガ故ニ止ムヲ  
得ズ自由ヲ與ヘシナリ

●新教徒ニ容忍ヲ與ヘタル原因ハ如何

「蒙りす」連合ノ兵ヲ以テ帝ニ迫ル帝百事意ノ如クナラス終ニ志ヲ屈シテ「澄さうー」ノ  
條約ヲ結ビ斯クナリシナリ

●查祿斯ハ其後如何ナリシヤ

法王ト佛國顯理ノ抵抗ニ由リ可憐ノ有様ニ沈ミ千五百五十六年終ニ帝冠ヲ棄ツ

●西佛多年ノ戰爭ヲ閉ジシ原因

英國ノ佛ニ領地ヲ有スルノ事全ク絶ヘ次デ千五百五十九年ノ「加どう、加むぶれせぬ」  
ノ條約終ニ斯ニ至リシナリ

●三十年戰爭ノ起元ヲ問フ

千七百年代ノ初半世紀ニ於テ歐洲大陸ノ大事件ハ三十年戰爭ニシテ其始マルヤ千六百  
十八年ニシテ千六百四十八年ニ終ヲ告グ

●三十年戰爭ノ中心ハ何ノ國ナルヤ

此ノ戰爭ノ中心ハ日耳曼ニシテ歐洲ノ諸國之ニ關セリ

●此ノ戰爭ノ原因ヲ問フ

第一宗教上ノ憎怨五百年間國內ニ鬱積シ終ニ「慕へみや」ノ乱ニヨリテ破潰ノ口ヲ見出  
シタルユト

第二新教徒國內ニ數多ノ寺領ヲ占奪シ舊教徒之ヲ回復セント主張シタルヨリ其間ニ不  
和ヲ生セシニ由ル

第三「浮ゐるぢなんど」帝西班牙ノ力ニ依リテ以テ日耳曼全國ヲシテ已レノ命ヲ聽クニ



(五十六百)

至ラシメントセシ

◎「慕へみや」戦争ノ原因如何

「慕へみや」浮あるぢなんど「帝ノ領地ナリシガ新教ヲ禁スル極メテ嚴ニシテ新教徒ヲ虐待スル」甚ダシキヲ以テ千六百十八年新教徒兵ヲ起シテ「ふれーぐ」王宮ニ亂入シ大ニ舊教徒ト大ニ戦ヒタリ

(六十六百)

◎「慕へみや」戦争ノ後「弗あなぢなんど」ハ如何

慕へみや征服以來日耳曼帝大ニ勢力ヲ得テ漸ク暴慢ノ舉動ニ及ビシ爲メ戦争ノ境界忽チ全國ニ廣ガリ日耳曼諸洲大抵皆于戈ノ聲ヲ聞カザルハナシ然ルニ新教黨ハ殆ンド皆此ガ爲メニ壓倒セラレントスルニ方リ噠馬王ニ「くりすちあん」四世ナルモノアリ日耳曼ノ新教徒ヲ助ケ「ふれでりつく」ヲ「ばらちね」ニ恢復セシメント欲シ千六百廿五年兵ヲ引イテ日耳曼ニ入ルコノ時日耳曼ニテハ「わーれんすたいん」ナル者帝ニ乞ヒ敵ニ當ラントス帝以テ日耳曼軍ノ將トス「わーれんすたいん」ノ部下ノ兵皆勇敢ニシテ善戦ヒ噠馬國ノ兵ヲ討テ之ヲ敗ル噠馬王逃レ返ル時ニ千六百廿九年辞ヲ低クシテ和ヲ日耳曼

(七十六百)

ニ乞フニ至ル日耳曼帝乃チ「慕へみや」ノ新教徒ヲ屠リテ茲ニ舊教ヲ恢復ス

◎「慕へみや」戦争ノ結果如何

千六百卅七年「ふあるぢなんど」三世没シ三世立ツ在位二十年ナリシガ前半年ハ戦争相續キ止ムコナカリシガ然シ此時ハ戦争ノ性質一變シテ宗教上ヨリ寧ロ政治上ノ争ヒトナリ佛王ハ瑞典王「くりすちち」ト結ビ以テ日耳曼ニ當レリ故ニ内國ノ新教徒モ終ニ日耳曼帝ヲ助クルニ至ル

(八十六百)

◎「うるすどふありや」ノ條約ノ顛末如何

日耳曼全敗シ千六百四十八年諸國ト「うるすどふありあ」ノ不利ナル條約ヲ結ブニ至ル而シテ其結果ハ即チ千六百四十八年ハ歐洲ノ歴史ニ一限界ヲ與ヘタル時期ニシテ此條約ハ歐洲ノ形勢ヲ一變シタリ從來日耳曼ニ於テ禍乱ノ源ヲ爲シタル宗教ノ争乱ハ茲ニ跡ヲ藏シテ日耳曼ハ信仰自由ヲ得然レモ政治上ヨリ見レハ此條約ハ日耳曼ノ國勢ヲ減セシニ外ナラス此條約ニ依リテ「ねざらんど」及ヒ瑞典ハ獨立ヲ得瑞典ハ「はめらにや」ヲ得佛國ハ「あるさす」ヲ得其他日耳曼ノ土地失ヒタル微カラス日耳曼ノ各宗教ノ自由ヲ



得テヨリ帝ノ支配ヲ受ケズ日耳曼聯邦ハ破壊スルニ至レリ

●「峨とたばす」ノ人トナリテ問フ

「峨とたばす」ハソノ人トナリ神ヲ敬シ人ヲ愛シ謹慎ニシテ事ヲ忽ニセズ又果斷ニシテ機ヲ誤ラズ實ニ今ヤ新教ノ保護者トシテ頭角ヲ顯ハシタル人ナリ

●三十六戰ノ勝者ナル「底りぬ」ヲ破リシハ何レノ地ニ於テ又誰ガ破リシヤ

「雷ふしつく」ノ平野ニ於テ「峨すた」と是ヲ破ル

●「峨とた」とノ最後ノ激烈ナル戰爭ハ何地ニ起リシヤ又其原因ヲ問フ

「縷つゑん」ノ地ニ起リ原因ハ日耳曼國ヲ「峨とた」と「ガ左右セントスルヲ帝大ニ驚キ「死れんとたぬん」ヲ將トシ軍事ノ全權ヲ托シタルヨリ起ル

●佛蘭西ハ何故ニ此戰爭ニ關セシカ

日耳曼ニ土地ヲ有セント欲シ且ツ又自國ノ強盛ヲ計ルノ一方便ニ外ナラサルナリ

●千六百四十八年ニ在リ歐洲歴史上ニ最モ必要ナルモノハ何ナルヤ

日耳曼帝「浮あるぢなんど」第三世ガ止ムヲ得ズ「威ととふわりや」ノ條約ニ同意ヲ表シ

タル事件ナリ

●此戰爭ハ日耳曼帝國ニ如何ナル影響ヲ及ボセシヤ

日耳曼ニ取リテハ大ナル不利ヲ及ボシ全國ノ諸邦ハ破壊シ人口三分ノ二ニ減シ一致結合ノ精神ナルモノハ地拂フニ至リ貿易文學製造等ノ不振又日耳曼全土唯々紛々タルニ至リタルハ皆此戰爭ニ由ルト云フ不可ナキナリ

●「尼せるらんど」ノ人民ハ何ヲ以其名歐洲ニ冠タリシヤ

勤勞ト才智トニヨリテ繁榮幸福ノ高度ニ達シ航海ノ業及ヒ製造ノ業ヲ以テ其名冠タリ

●非立ガ新教人民ヲ刑ニ處セシ結果如何

一國是ガ爲メニ驟然トシテ一揆ヲ起シ寺院ヲ損シ財寶ヲ奪フコト其數フル能ハザルニ至リシナリ

●四十年戰爭ハ何年ニ起リ何年ニ終リシヤ又其原因ハ如何

千五百六十八年ヨリ千六百九年迄ニ至リテ止ム而シテ其原因ハ「於れんじ」侯維廉日耳曼ヨリ兵ヲ擧ゲテ「尼せるらんど」ニ入り西班牙ノ兵ニ抗敵シタルヨリ起レリ



◎和蘭共和國ノ基礎ヲ立テシハ誰ナルヤ  
「於れんじ」侯ナリ

◎和蘭人天下ニ名ヲ博シタルハ何故ゾ

航海術ニ於テ其名ヲ博シタリ

◎和蘭共和國ノ獨立ノ定リタルハ何時ナルヤ

千六百九年終ニ休戦ノ約ヲ結ブ即チ此時ニ獨立ヲ定メタリ

◎佛蘭西ノ舊教ノ首領ハ誰ナルヤ又之ガ後助ヲ爲スモノハ誰ナルヤ

「加ざりん」茂ん、蒙れんしむ「我をそ」兄弟ナリ後援者ハ羅馬法王及ヒ西班牙國トス

◎又此時ニ新教ノ首領ハ誰ナルヤ後援ハ誰ナルヤ

「拿ばある」古んで「公」古りにし「ナリ」後援ハ日耳曼英倫及ビ「尼せるらんど」ノ改革黨

ナリ

◎佛國內乱ノ原因

「膨げのつと」ノ要求忽チ拒絶セラレシ故ナリ

◎佛國內乱ノ有様ヲ問フ

宗教上ノ原因ノミナラス又政治上ノ精神ヲ毘入セリ

◎「ふらんしす」一世日佛戦争如何

千五百十五年「るい」十二世死シ「ふらんしす」一世次グ王ハ人トナリ活潑ニシテ「しや

「れまん」帝國ヲ恢復スルノ意アリテ千五百十九年日耳曼諸侯ノ甘心ヲ求メ其帝位ヲ

得ノコトヲ望メリ然ルニ西班牙王「ちやゝゝるす」王位ヲ得テ大ニ威權ヲ輝カセシカバ「弗

らんしす」「ちやゝゝるす」ヲ嫉ムコト甚ダシク遂ニ戦争ヲ開ケリ佛軍敗レ屢々和ヲ結ビタ

レモ「弗らんしす」ハ此約ヲ守ラス和ノ破ル、コト數回ナリシカ「くれすビー」ノ條約ニ依

リテ初メテ兵ヲ解ケリ

◎英普墺三國同盟ト佛國ト兩軍雖雄ヲ決スルノ戦ヲ開キタルハ何所ナルヤ

千八百十五年「うをたゝろ」ノ地ニ於テ戦ヒ佛軍敗走セリ此役ヤ佛將「なぼれをん」ハ

敵將「うゑりんどん」及ヒ「ありす」ノ爲メニ非常ノ撃ヲ蒙リ僅ニ身ヲ以テ逃ル、コト

得タリ



●「うをたゝろ」ノ戦ニ續テ如何ナル事が起リシヤ  
 「ありす」將軍巴里ヲ占メ「ぼーるばん」王室ヲ回復シ「なばれをん」ヲ「せんとへれな」ニ流瀆シ「なばれをん」ノ奪取セシ各工場ヲ所有主ニ返還シ埃地利、普魯亞、露西亞、西班牙、和蘭及ビ伊太利等ノ國境ヲ舊體ニ恢復セシ等ノ事起レリ  
 ●英佛戰爭トハ如何

「るい」ノ勢力ハ極點ニ達シ殆ンド全歐洲ニ秀徹シダレバ各國之ヲ恐レタリ而シテ和蘭ノ王「うゐりやむ」ハ「るい」ノ仇敵ナリ英國ノ廢王「せーむす」ニ次キテ王トナル「るい」之ヲ英王ト認ムルヲ肯セズ遂ニ「うゐりやむ」西班牙瑞典日耳曼及ビ和蘭等ト同盟シ「るい」ニ向フ即チ是ナリ爾後八年戦ヒ和蘭其中心タリ遂ニ「らいつういつく」ニ條約ヲ結ビ佛王ハ「うゐりやむ」ヲ認タリ

●三十有餘年ノ内亂ノ種子ヲ絶テタルハ何ニ由リシカ

「拿んど」ノ詔ナルモノヲ發シ新舊兩教併ヒ行ハレテ相害セザラシメン故ナリ

●十六世紀ノ間英倫ヲ支配シタルモノハ誰ナルカ又此時代ノ性質ヲ形造クル者ハ何カ

「智ゆどる」諸王ナリ性質ヲ形造ルモノハ新教ノ勃興商業ノ繁榮ニ赴クナリ曰ク文學ノ隆運ナリ

●英國ニ於テ最モ注意スベキハ何ナルヤ

緊要ナルモノ少ク注意スベキハ内國ノ事件ナリ

●顯理ノ六條ヲ設ケシ後新舊兩教共ニ虐待ヲ蒙リシ原因

新教者ハ教則ニ從ハズ舊教者ハ教權ヲ拒ミシニ由ル

●宗教改革ノ發端ハ誰ナルカ

顯理第八世羅馬法王ノ權力ヲ拒ミ以テ此ヲ爲セシナリ

●宗教改革ノ原因ハ如何

「ちやると」第五世ノ時代即チ十六世紀以降百餘年間歐洲一般ニ行ハレ其源ハ日耳曼ニ在リテ其原因ハ當時歐洲各國ハ凡テ耶蘇教ヲ奉シタレ其教義ハ漸ク腐敗シ法皇ハ教權ヲ假リ私慾ヲ逞フシ僧侶ハ無學不識ニシテ品行不正是ニ於テ耶蘇教ニ容ル者諸國ニ勃興シ日耳曼ニハ「まるちんる」ニテナル者アリ瑞西ニハ「うるりひ、つういんぐり」



ナル者アリ佛國ニテハ「じよんかる、びん」ナル者アリ蘇蘭土ニテハ「じよん、のつく」ナル者アリ而シテ今ニ於テハ人民ノ智識モ大ニ進歩ヲ爲シ耶蘇教義ノ腐敗シタルコトヲ覺リ法皇ガ政治上ニ干涉スルコトノ非理ナルコト及ヒ僧侶ノ行ヒノ非ナルコトヲ噴クレバ宗教改革ノ説ニ在胆スル者ノ日ニ増加スルニ至レリ

●「まるちん、るーてる」ハ何人ゾ「いんだるせんす」ハ如何

「まるちん、るーてる」ハ千四百八十三年ヲ以テ「さくそふー」ニ生ル其性質ハ快活ニシテ剛氣ナリ而シテ才學ニ富メリ壯ナルニ至リテ「をーがすちん」派ノ僧侶ト成リ次デ「ういつでんぶるく」大學ノ講師ト成リ夙ニ耶蘇教義ノ非理ニ流レタルヲ憂ヒタリシガ千五百十年使命ヲ帶ヒテ羅馬ニ至ルニ及ンテ僧侶ノ行爲甚タ腐敗シタリシヲ見テ慨然トシテ國ニ返レリ其後千五百十七年「どみふかん」派ノ僧侶ナル「てつねる」ナル者アリ「いんだるせんす」ヲ賣却センガ爲メニ「さくそふー」即チ「まるちん、るーてる」ノ生レタル所ナリ其所ニ至ル「いんだるせんす」ハ法皇ヨリ發シタル赦罪狀ニシテ之ヲ買フ者ハ現世ニ於テ凡テノ罪惡ヲ償ヒ得ルト云ヒ散ラセシ者ナリ「てつねる」ハ性質黠猾ニシ

テ人民大ニ之ヲ惡ム「るーてる」即チ其機ニ乘シ奮然起リテ「いんだるせんす」ノ非法ニシテ耶蘇教元來ノ教義ニ背キタルヲ説キ耶蘇教ノ現時ノ弊惡ナル風ヲ擧ゲ以テ其ノ改革セザルベカザルコトヲ唱道セシ即チ「まるちん、るーてる」ナリ

●米理ノ非立第一世ト婚姻セシ目的ハ如何

新教ニ對シテ自身ノ力ヲ強メンカ爲メニアリ

●婚姻ノ結果如何

佛國ノ「加れぬ」ノ地ハ英王ノ手ヲ脱シ米理ニ大ニ不利ヲ與ヘシ

●此連合ハ英國人ニ取リテ如何

英國人ニ取リテハ大ニ不快ノ感情ヲ起サシメタリ

●英倫ノ歐洲ニ於テ最モ上等ノ地位ヲ占メタルハ誰ノ爲メナルカ

女王「耶利沙泊」ハ英明ニシテ其時ニ「魯るど」「拔いれぬ」及ヒ「弗らんしす、瓦るしんぐ」ハ「む」ノ如キ人女士ヲ助ケシ故ナリ

●「うるすむ」ノ國會トハ如何



「れを」第十世法皇タリ「る」てゐる「漸ク」勢力ヲ得テ日耳曼ノ貴人公侯等往々心ヲ「る」てゐる「ニ」傾クルモノアリシガ法王毫モ意ニ介セズ蓋シソノ争ヒヲ以テ「奥がすちん」門徒ト「獨みふかん」門徒ノ間ノミニ關係シタル者トナセシナリ然レモ「ばちかん」ノ震雷終發シ大膽ナル「る」てゐる「ヲ」破門ノ罰ニ處シタリ然レモ「る」てゐる「ハ」破門ノ宣告狀ヲ採テ公然公衆ノ面前ニテ之ヲ焚燒シ以テ決然法皇ニ抵抗スルノ意ヲ示セリ是ニ於テ「さくそふ」公ハ力ヲ振ヒ主トシテ「る」てゐる「ヲ」助ケシ故ニ法皇大ニ懼レ「ちや」ゆるす「五世」ニ之ヲ諮ル「ちや」ゆるす「乃」チ國會ヲ「うるむと」ニ開キ「る」てゐる「ヲ」ソノ異端ヲ唱フル理由ヲ糾問スル爲メ會議ニ出席スル「ヲ」促セシガ或人「る」てゐる「ヲ」止メ危險ナルヲ告グ「る」てゐる「莞爾」トシテ曰ク假令ヘ會場ニ於テ惡人群ヲ爲スモ我ハ尙ホ往カント堂々タル撰擧侯及ヒ高僧貴人ノ面前ニ立チ滔々自説ヲ述ベテ少シモ屈スル所ナシ侃然トシテ其説ヲ變改スル「ヲ」敢テセズ聲ヲ勵マシテ良心ノ命スル所之ニ從フハ智者ノ事ナリ正士ノ行ナリ我ハ斷乎トシテ我説ヲ持ス神明我ヲ助ケント終ニ「さくそふ」ノ爲ニ程ナク阪ル

●西英戦争ノ結果ハ如何

英國ハ海上ニ權ヲ握リ和蘭ハ獨立ヲ確固ニシ佛國ノ新教徒ハ勢力ヲ盛ニシ西班牙國ハ漸ク衰運ニ赴キシナリ

●英領印度ノ基ヲ發シタルハ何年又誰ノ時代ナルカ

「耶利秒伯」時代ニシテ千六百年ニ東印度會社ナルモノ起リ其基ヒヲ開ケリ

●十六世紀ニ於テ最モ著明ナル事實ハ如何

技術ノ進歩ナリ

●英國ノ文學ニ秀デタルハ何故ヲ

「智ゆゑる」諸王ノ如キ顯理第七世ノ外ハ皆學ニ從事シ「顯理」第四世ノ如キ「耶利秒伯」ノ如キモノ有シ故ナリ

●英國人民ノ平穩ノ處置ヲ施サレリシハ如何

當時其國民ノ意志革命ヲ熱望シテ己マザリシカ故ナリ

●全國ヲ分チテ十一ト爲シタルハ何故ヲ



英吉利ヲ治ムルニ「くろんうゆる」專制ヲ以テシ且ツ其威ヲ固カラシメンガ爲ナリ

●英國人が千六百八十八年ノ榮光アル革命ナル者ハ如何

權利章程ヲ制定シ國民ノ自由ヲ固メ將來ノ專制ニ備ヘタルモノ是ヲ云フ

●佛國專制國ト成リシ原因

貴族全ク其權ヲ墜シ國會ハ從ツテ振ハズ王ノ布令ハ善惡ヲ問ハズ法律ト爲スニ至リシ故ナリ

●路易第十五世ノ一世間ニ企テシ戰爭ノ目的且ツ各名稱數及ヒ年數ヲ問フ

目的ハ自身ノ功心ヲ滿シ佛國ノ權力増サンガ爲メナリ而其數ハ四箇ナリ第一「弗らん  
だるす」戰爭「英らしやべる」ノ條約ニ終ル第二和蘭戰爭「尼みーげん」ノ條約ニ終ル第  
三「巴らちねー」と「戰爭」雷すうわつく」ノ條約ニ終ル第四西國王位繼承戰爭「宇ーどれ  
ひと」及ヒ「羅すたつと」ノ條約ニテ終ル第一自千六百六十七年至千六百六十八年第二  
自千六百七十二年至千六百七十九年第三自千六百八十八年至千六百九十七年第四自千  
七百一年至千七百十四年

●路易王和蘭國ヲ襲ヒシ原因

西班牙ヲ助ケ佛國ノ事ヲ妨ケシガ故ナリ

●其時ニ路易王如何ナル方法ヲ用ヒシヤ

英倫及ヒ瑞典ニ賄賂ヲ送り同盟ヲ脱セシメ而ル後ニ此ヲ襲フ

●此戰爭ノ結果如何

此結果佛軍勝テ得テ歐洲諸邦和ヲ乞フニ至ラシメシ

●佛王ノ勢力ヲ失ヒ數多ノ邦國ヲ棄テタルハ何故ゾ

佛國ニテ路易王ノ手足ト特ム所ノ「固べる」「路はあ」「縋させぶるく」等死セシニ由ルナリ

●英倫ニ於テ十七世紀ヲ貫穿スル事件ハ何ナルヤ

王ハ常ニ專制ノ權ヲ張ラント欲シ議院ハ人民ノ權ヲ伸ベントセシモノ是ナリ

●舊教徒ハ王ニ如何ナルコトヲ爲サントセシヤ

舊教徒ハ自身ノ虐待セラル、ヲ惡ミ王ヲ議院開場ノ際火藥ヲ以テ失ナハントセシナリ



- ◎其後チ議院ノ争ヒハ誰ノ時代ニテ其有様ハ如何
- 惹武斯王ノ時代ニシテ其有様ハ王ハ其權勢ヲ増ザントシ議院ハ自由ヲ伸ベントセリ
- ◎查祿斯王ノ復議院ヲ召集セシハ何故ゾ
- 蘇人大ニ沸騰シ干戈ヲ訴ヘ英倫ニ迫ルノ變ニヨレリ
- ◎長議院ノ起元ヲ問フ
- 再ヒ議院ヲ召集セシ故ニ千六百四十年ニ起ル
- ◎「びゆりたん」黨ヲ幾何ニ分ツヤ各其名稱ヲ問フ
- 此黨ヲ分チテ二トナス曰ク「布れすびてりやん」曰ク「因でぺんでんと」ナリ
- ◎「布れすびてりやん」ノ説ク所ハ如何
- 此派ノ説ク所ハ宗教上ニテ一致シ政治上ニテハ王權ヲ制限セントス
- ◎「因でぺんでんと」ノ説ハ如何
- 此派ハ宗教上ニテ容忍ヲ主張シ政治上ニテハ共和政ヲ説クモノトス
- ◎查祿斯王ノ死刑ノ宣告ヲ受ケシハ何年又如何ナル故ヲ以テセシカ

- 千六百四十九年ニシテ其所由ハ叛逆ノ罪ヲ以テナリ
- ◎查祿沒後ノ英國ハ如何
- 查祿斯沒後英國王、君、何レモナク共和國ノ体ヲ取り腎議院全權ヲ持ス
- ◎「斯ちゆあるど」家ノ爲メニ理沒セラレシ英國名譽ヲ回復セシメシハ誰ナルカ
- 「區ろむうゑる」其人ナリ
- ◎「區ろむうゑる」晩年ハ如何ナル有様ヲ現出セシカ
- 晩年ニハ慘憺タル狀執ヲ現ハシ英人一般ニ共和政ヲ厭ヒ武人ノ治ヲ好マザルニ至ル
- ◎「くゑつか」ノ起元及ヒ其主意ヲ問フ
- 千六百五十八年英國ニ起リ其主意タル戦争ヲ排シ萬人ノ同胞ナルヲ出張シタリ
- ◎英國ニ於テ專制政治ノ再發ノ原因如何
- 查祿斯第二世英國ニ販リ復セシナ人民大ニ喜ビ王ニソノ權力ノ制限ヲ爲サハリシ故ナリ
- ◎千六百八十八年ノ革命トハ如何ナルモノナルヤ



惹武斯第二世ハ援ナク佛國逃ケ維廉及ビ米利ノ二人ニ與ヘ共ニ英國君臨セシム二人權利狀ニ同意ヲ表シ固ク人民ノ自由ヲ保チタリ之ヲ名ケテ斯克云フナリ

●革命ノ結果ハ如何

此結果ハ忌ムベキ且ツ惡ムベキ弊害ハ之ヲ聽カザルニ至レリ

●權利狀ノ中重ナルモノヲ擧ゲヨ

第一王ハ法律ヲ廢シ又法律ノ施行ヲ止ムルヲ能ハズ

第二王ハ國會ノ同意ヲ待タズシテ金錢ヲ徵收スル能ハズ

第三都テ臣民ハ國王ニ向ツテ請願ノ權利ヲ有ス

第四國會ノ許ヲ經スシテ平時ニ兵士ヲ集ムルヲ得ズ

第五議員選舉及ヒ議場ノ言論ハ須ラク自由ニシテ干涉制限ヲ被ムラザル可シ而シテ國會々合ハ須ク頻々ナルヘシ

●維廉ノ時ニ議院ノ勢力ヲ増セシ原因如何

一國ノ政ハ大抵議院ニ托シ已レハ唯ク戰爭ノ費ヲ支フ可キ金ノ供給ヲ受取リ以テ足レ

リト爲セシ故ナリ

●「安」女王時代ニ於テ最モ有名ナル事件ハ何ナルヤ

英蘇兩國ノ合併ニテ即チ大貌列顛ト云名稱ノ起元ナリ

●十七世紀ノ歐洲文明ノ有様如何

著シキ進歩ヲ爲シ哲學、理學、文學、技術皆大ニ發達ヲ得シ

●魯士亞ノ起元ヲ問フ

第九世紀諾曼人「路りつく」ノ時ナリ

●波得ノ目的ハ如何

人民ノ風俗ヲ改メ智識ヲ増シ從來ノ弊害ヲ除キ文明ノ澤ヲ受ケシメントセシニ在リ

●歐洲文物ガ魯士亞ニ行ハル、ニ至リシ原因

波得國ニ販リ大革改ニ着手シ諸弊ヲ除キ宗教ニ信仰自由ヲ許シ其他學校病院ヲ作り印刷術ヲ盛ニシ海陸軍ノ制度ヲ改ムル等此等カ其原因トナルナリ

●「仙んどぱーたーすばーぐ」ハ誰ノ設立スル所カ



波得ノ設立スル所ナリ

◎波得帝ノ賜ハ如何

其賜ハ魯士亞ノ文明大ニ進歩シ昨日マデハ蠻國人トセラレシモ今日ハ盛國ト稱ヘラル、ニ至ル即チ是賜ナリ

◎七年戦争ノ結果ハ如何

「西れーや」ヲ普魯士ニ與ヘシモ又之ヲ回復セント爲シタルニ由ル

◎七年戦争ノ結果ヲ問フ

普國ノ「西れーや」所有ノ權強クナリ「弗勒德力」ノ英名世界ニ廣ク一躍シテ歐洲五強國トナリ、地地利ト其雌雄ヲ争フニ至レリ

◎亞米利加革命ハ何世紀ナルヤ

第十八世期間ニ在ト

◎南海會社ノ目的如何

南亞利米加商業ノ特權ヲ目的ト爲スモノナリ

◎英國史中最長期ハ誰帝ナルカ

「若爾日」第三世ノ時代ナリ

◎亞米利加革命ノ亂ハ何ヨリ發セシカ

千七百六十五年ノ證印條例ノ發令セシニ發ス

◎亞米利加革命後英國ノ著名ナル政治家ハ誰ナルヤ

「浮をつくと」及ヒ「少」比つと「トナス」浮をつくと「ハ改進黨ノ首領ニシテ少」比つと「ハ保守黨ノ首領ナリ

◎佛國ノ黄金時代ハ何帝ノ治世中ナルヤ

路易第十四世ノ治世中終ノ三十年佛國ノ權力最盛ニシテ外ハ兵威ヲ輝カシ内ハ繁榮ニ赴キ是ヲ黄金時代ト云フ

◎佛國革命ノ原因ヲ記セヨ

佛國革命ハ亞米利加ヨリ來リタル刺衝ノ結果ナリ

◎佛國革命ノ起元如何並ニ何帝ノ時代ナルヤ且ツ何年間ナルヤ



路易第十六世期ノ時代ニシテ實ニ千七百八十九年ニ起ル而ノ百七十五年ヲ經過シヨリ

●路易第十五世ノ死刑ニ處セラレシハ何年ナルヤ且ツ其ニ就キ歐洲人ハ如何ナセシヤ  
千七百九十二年死刑ニ遇フ其後歐洲全國合同シ佛人ノ罪ヲ討タントセシ

●上官政府ノ時代ニ最モ名譽ナルモノハ如何而ノ其重ナル者ハ誰ナルカ  
外國ノ戰功ニ在リ而ノ其主ハ拿破崙勃那把爾的其人ナリ

●伊太利戰爭後二十年ノ歐洲ノ歴史ノ大部ヲ占ムルモノヲ記載セヨ  
拿破崙ソノ人ノ履歷ナリ

●拿破崙ノ埃及ヨリ販リシ時ノ國狀ハ如何  
「西わぎー」ノ羅馬ニ販リシ時ノ如ク黨論紛々上政官ハ此ノ紛亂中ニ援ナク少シノ勢力  
ヲ有セザリシ

●佛國ニ於テ最モ記憶ヲ要スルモノ如何  
當時佛國ニテモ「西わぎー」時代ノ羅馬ノ如ク共和ノ外面ハ尙ホ存在シタルヲ要ス

●路易第十八世ノ智德共ニ欠乏ガ人民ニ如何ナシヤ

一國ニ便利ヲ與ヘ人民ニ幸福ヲ授ケタリ

●七ヶ月革命ノ原因且ツ起年ヲ問フ

查祿斯第十世虐政ヲ施セシヨリ千八百三十年ニ起ル

●佛國於テ最モ必要ナル事件ハ如何ナルモノナルヤ  
拿破崙ノ滅亡セシ日耳曼戰爭是ナリ

●奧普戰爭及ヒ聯邦ノ分離ハ如何

奧普二國ハ互ニ權力ヲ爭ヒ久シク相猜忌セル有様アリシガ千八百六十三年「ほるすた  
いん」「すれとういつぐ」ニ公領ガ噠馬ニ反セル此二國ハ公領ヲ助ケテ噠馬ヨリ分離  
シ却テ此ヲ己レニ得タリ而ノ此公領ノ處置ヲ議スルニ當リ普國ハ己レノ領屬トナサン  
ト欲シ奧國ハ聯邦洲ノ一ニ加ヘントシ意見相容レズ遂ニ宿昔ノ不和破レ兵力ニ訴フル  
ニ至レリ然レモ普國勝テ得テ奧國遂ニ普國ニ和ヲ乞テ千八百六十六年「ふれーど」ニ於テ  
平和ノ條約ヲ結ベリ此條約ノ爲メニ奧國ハ獨立トナリ日耳曼聯邦ヲ脱シテ爾來今日ニ  
及ベリ



●普佛戦争ノ原因及ヒ結果

佛帝「なばれをん」第三世ガ「ぶろしや」王ノ親屬「はーへんぞるれるん」洲ノ「れはばる」と「自ラ西班牙ノ王タラントセシニ在リト雖ヒ其實ハ普國ノ權勢日々ニ強勢ヲ致シ日耳曼諸邦ノ盟主タルヲ着テ大ニ之ヲ嫉ミ採折セント志シ其機ヲ望メリ偶々西班牙人其女王「いさべら」ヲ廢シテ普王親屬「れをばる」と「ヲ迎ヘントス」なばれをん「拒ミテ普王ニ「れをばる」と「ヲ王ニ即カシメサルユトヲ盟ハシム普王之ヲ肯セズ千八百七十年普佛戦争起ル然シテ結果ハ南部日耳曼諸洲皆普國ニ應援シ又同盟諸洲共ニ援ケ宰相「びすまーく」及ヒ「もるとけ」兩將帷幕ニ在リ大ニ勝ヲ得テ「なばれをん」ヲ「せだん」城ニ擒ニシ進ンデ巴里ヲ陥ル佛國和ヲ乞フ「あるさ」と「ろるれん」ノ「地及ヒ償全五十億法ヲ得テ千七百七十一年」ふらんくふをとると」ニ於テ和ヲ結ベリ

●南北戦争トハ如何ナルモノナルカ

合衆國ハ獨立以來疆域大ニ擴マリ日ニ繁榮ニ至レリ而シテ北部地方ニテハ工業ヲ盛ニシ南部地方ハ奴隸ヲ使役シテ農業ニ從事シ南北業ヲ異ニスルヨリ反對ノ地位ニ立テリ且

ツ南部人民ハ自由貿易策ヲ賛成スルモ北部人民ハ常ニ保護貿易ヲ主張シ奴隸使役ノ王理ニ背クヲ強ク反對シ徒黨ヲ結ンデ相争フユト數拾年ナリキ千八百六十年北部ノ領袖「ふらりんこるん」大統領トナルニ及ヒ南部諸洲ハ北部ヨリ分レ自ラ聯合國ト稱シ「じゆふあーめん、でいうゐす」ヲ撰ンデ大統領トナシ政府ヲ「ヴあじふあ」洲ノ「りつちもんど」ニ設立シタリ時ニ北部二十三洲連合シテ千八百六十一年ヨリ四年間兩民ニ分レ戦争ニ從事シ南部初メハ勢力旺盛ナリシガ千八百六十三年「りんこるん」令ヲ發シテ奴隸全廢ヲ敵地ニ報セシカバ奴人北部ニ加ハルモノ多ク北軍大ニ勢力ヲ占メ「べんしるばあにあ」等ニテ勝ヲ得テ尋デ「ぐらんぞ、ヴいつくすぶるぐ」將軍ヲ破リ南部兵ノ連合ヲ「てんねつしー」洲ヨリ追放シ南軍ヲ挫ク千八百六十五年「パーター」をぶるぐ」ニ於テ會戰シ南軍ノ將「リー」ヲ擊破シ北部全勝ヲ得終ニ奴隸使役全廢セリ之ヲ南北戦争ト云フ

●十七世紀ニ於テ英吉利一時共和政治トナレリ其巨魁ハ何人ニシテ其原因ハ何ナルヤ英國ノ一時共和政治トナリシキノ巨魁ハ「くらんうゐる」ナリ其原因ハ「ちやーるす」



世ノ時施政ノ方向誤リ國會ト王トノ間ニ一ノ紛擾ヲ生シ爲メニ國內ニ王黨議員黨ノ二大黨顯ハレニ黨交モ相戰而ノ議員黨ノ巨魁ハ「くろんうゐる」ナリ千六百四十五年「ねーすびー」ノ戰ヒニ於テ王黨大敗シテ王ハ蘇國ニ走ル蘇人捕ヘテ議員ニ送ル此時議員ハ二派ニ分ル一ハ王權ヲ制限セントスルニアリ是ヲ「ふれすびてりあ」派ト云フ一ハ王位ヲ全廢スルニアリ獨立派即チ「びゆりたん」派ト云フ「くろんうゐる」ハ「びゆりたん」派ノ首領タリ而シテ「くろんうゐる」ハ多少ノ反對者有ルニモ拘ラズ「うゐすとみにそたー、はーる」ニ高等法院ヲ開キ王ヲ拘置シ死刑ニ論シテ曰ク暴君ナリ叛逆ナル殘賊ナリ公敵ナリト「はわいと、はーる」宮ノ前面ニテ死刑ニ處ス其後國會民主政体ヲ組織シテ共和國トナル

◎十八世紀ノ始メ迄デ魯國ノ振ハサル原因

蒙古ノ蠻族中央亞細亞ニ居リ常ニ歐羅巴ニ侵入シ奪略ヲ逞フス而シテ魯西亞ハ正ニ其衝ニ當ルヲ以テ數々其侵入ヲ受ケ災厄ヲ蒙ルル第十三世紀ニ至リテハ「げんぎすかん」ニ屬スル韃靼人ノ爲メニ國中ヲ蹂躪セラレ其後羈勒スル所トナルコト二百有餘年且ツ

波蘭人及ヒ「くすあにや」人ハ國ノ西境ヲ限リテ魯西亞ヲシテ全ク孤立セシメ歐洲ノ事件ト相干涉スルコト勿ラシメタレバナリ

◎佛國革命ノ目的及ヒ歐洲ニ及ボシタル影響ハ如何

國民黨ナルモノ起リ國王貴族及ヒ僧侶ノ特權ヲ全廢シ政治上及宗教上ノ自由ヲ許ス等悉ク舊制度ヲ破壊セントセリ路易王之ヲ壓セント欲シ三萬ノ兵ヲ王宮及國會ノ所在地ニ集ム革命黨益々勢力ヲ得異動ヲ爲ス又「ばすてる」ノ牢獄ヲ毀チ又王宮ヲ襲フ「るい」王遁レテ巴里ヲ出ツ途ニテ捕ヘラレ「てんふる」ノ獄中ニ幽閉セラル是ヨリ貴族僧侶ノ民政ニ反對スルモノ千五百人ヲ虐殺シ遂ニ國民會議ニ於テ君主政体ヲ廢シ共和政体ヲ布告シ王ヲ裁判シテ遂ニ死刑ニ處シ王政ヲ廢シ共和政体ヲ組織シタルヲ以テ其主權者變更ノ目的ヲ達シタリ而シテ其最終ノ目的ハ之ヲ得ル能ハズ愈ヨ塗炭ノ苦界ニ陷レリ此革命ノ歐洲ニ及ボシタル影響ハ政治上ニ大變化ナキ國ニ於テモ著シク社會上ノ變革ヲ生シタルアリ以テ此革命ヨリ生ジタル大体ノ利益ヲ知ルベシ

◎クリミア戰爭並ニ巴理ノ條約ヲ記載セヨ



土國獨立後數年魯國ハ土耳其ノ内地ニ干涉セシトシテ土耳其政府ノ下ニ在ル耶蘇教徒ヲ保護セシトテ求メタルニ土耳其政府ハ之ヲ拒絕シタリシ故ニ魯國ハ遂ニ土耳其ニ向ツテ軍兵ヲ發シタリ然ルニ此際英國ハ魯國ニ政略ヲ妨ゲン爲メ土耳其ヲ助ケ佛帝「なぼれをん」三世ハ魯帝ト不和トナリシガ故ニ亦土耳其ヲ助ケタレバ此戰爭ハ魯國ト英佛土ノ三同盟軍トノ戰トナリ同盟軍ハ千八百五十年「くりみや」ヨリ上陸シ「せばすとばール」ノ城ヲ圍ムト一年餘遂ニ之ヲ破リ此際「にこらす」歿シ「あれきさんどる」一世即位ス爾後一年餘戰爭相續キ兩軍共ニ疲レ千八百五十六年巴里ニ於テ條約ヲ結ベリ此平和條約ハ魯國ノ境ヲ減少シ又黑海ニ戰艦ノ出入ヲ禁セシガ同時ニ英佛奧ノ三國土耳其ノ獨立ヲ保ツベキヲ盟約セリ

◎ピール大帝ハ何人ゾ

千六百八十一年「ピール」一世即位ス世人ノ大帝ト稱スル者はナリ王乃チ國內ノ制度人民ノ風俗ヲ改良シ智識ヲ増進シ歐洲文明ヲ輸入センコトヲ企テ先ツ海港ヲ得ルノ必要ヲ知リ兵ヲ發シテ國境ヲ東海ヨリ黑海ニ擴張シ黑海ノ沿岸「あどふ」港ヲ土耳其ヨリ奪

(四百六十二)

取セリ大帝ハ更ニ歐洲諸國ノ文明ヲ視察センガ爲メ千六百九十七年外行ヲ企テ一國政治ノ大權ヲ以テ之ヲ一貴族ノ掌中ニ委任シ直チニ和蘭ノ「あひすてるだむ」ニ至リ職工トナリ日夜造船場ニ出入シ工事ニ從ヒ普通ノ賃錢ヲ受ケ鄙シキ家屋ニ住シ自カラ衣服ヲ繕修シ食物ヲ調理ス同時ニ造船其他ノ技術ヲ習得シ社會制度等ヲ考察シ居ルト二年許リ去リテ英國ニ之キ熱心ニ海ニ關スル事業等ヲ查究シ千八百年初メテ版國シ内國ノ制度文物ヲ改良シ政事宗教及ヒ教育等ヲ改革シ今ハ「馬るちつく」海上ニ一港ヲ占領セント思ヒ噠國及ヒ波蘭ト合同シテ瑞典ヲ攻撃シタリ

◎瑞典トノ戰爭ハ如何

大帝又自國ノ勢力ヲ列國間ニ振ハント欲シテ而シテ此目的ヲ達センニハ瑞典領ナル「馬るちつく」海上ニ土地ヲ占領スルノ必要ヲ知リ千七百年ニ前題ノ如ク連合シテ瑞典ト戰爭ヲ開ケリコノ時瑞典王「ちやーるす」十二世ハ年僅カニ十八ノ少年ナレモソノ志既ニ巍々トシテ豪傑ノ風アリ故ニ三國連合ヲ以テ毫モ意ニ介セズ兵ヲ引キ噠馬ヲ蹂躪シ魯兵ヲ「なばる」ニ破リ其後波蘭ニ侵入シ其王「かすたばす」二世ヲ廢セリ時ニ千七百四

(五十六百二)



年ナリ查祿斯ハ名譽ノ高点ニ達シ佛國英國ノ如キ和親同盟ヲ乞フニ至ル此際大帝ハ密ニ兵力ヲ休養シタリシカ瑞典王大帝ノ和議ニ應セズシテ魯國ニ進入スルニ及ヒ道路ヲ破リ土地ヲ荒ラシ瑞典王ヲ苦メタリ而シテ是ヨリ先キ大帝ハ「なばる」ノ敗報ヲ得ルヤ敢テ動ク色ナク從容トシテ人ニ語ツテ曰ク焉ヲ知ラン今日ノ敗北轉シテ他日ノ勝利トナラザルコトヲ時ニ天塞ク瑞典兵凍死スル者數ヲ知ラズ大帝此機ニ乘シ瑞典兵ヲ襲フ會戰數次遂ニ查祿斯亡ブ時ニ千七百九年ナリ

◎大帝ノ治世魯國ノ勢力如何

大帝ノ間大ニ國事ヲ改メ戰爭ノ際ニモ孜孜トシテ内治ノ改良ニ從事セシガ陸海軍ハ新ニナリ法律制度ハ整ヒ商業工業其他百般ノ事物ヲ改良セラレタリ又瑞典トノ戰爭ニ於テ大ニ國境ヲ擴メ「ねば」河岸ノ瑞典人ヲ放逐シテ「ゼんとパー」ヲ「すばー」ヲ建テ「もどこー」ニ代リテ首府トナシ又波斯亞ト戰テ裏海近傍ノ土地ヲ得タリ故ニ魯國歐洲五強國ノ一トナレリ

◎十七世紀ニ於ケル哲學ノ進歩ハ如何

英國ニテハ「ベール」歸納論理ノ方法ヲ人ニ教ヘ佛國ニテハ「デール」萬疑ノ中ヨリ眞理ヲ求索セント欲シ和蘭ニテハ「スビー」ナル者古代萬有神教ノ如キ說ヲ唱ヘ日耳曼ニテハ「雷」宇宙愛人ノ說ヲ主張セリ

◎十七世紀ニ於テ重要ナル理學ノ發明如何

十七世紀ノ始メニ於テ「かりれ」望遠鏡ヲ發明シ木星ノ月ヲ見出シ千六百四十二年「尼ゆうとん」生レ引カテ發見シ「とりせり」風雨計ヲ「がりつけ」排氣鐘ヲ「はるべい」ハ血液循環ノ理ヲ「拿ぶる」ハ對數式比例ヲ「ばすかる」ハ空氣ニ重量アルノ理ヲ「けびらー」ハ遊星運行ノ三法則ヲ世ニ出シ「るーまー」ハ光線ノ速力ヲ算定シ「ほろつくす」ハ金星經過ヲ觀察シ「波あれい」ハ彗星回期ヲ預言シタル等種々發明アリタリ

◎十七世紀ノ文學ハ如何

佛國ハ進歩ノ高度ニ達シ佛國ノ文運ハ他邦ニ超出セリ而シテ詩文ヲ以有名ナル「らしん」「茂りるゝ」ノ如キ者亦之アリヤ戯作者ノ「らふをんていん」修辭術ヲ以テ世ニ知ラレタル「没しゆあー」散文家ノ「ばすかる」「てれまつく」小説ヲ以テ有名ナル「ふるねる

(六十六百二)

(七十六百二)

(八十六百二)

(九十六百二)



ん「佛國」保れ「す」ノ名ヲ得タル「ばある」「書信文ニテハ」まだむ、とせびね「路易十四世ノ墓上賛詞ヲ誦セシ」まつんろん「等アリ英國ニテハ」せきすび「や」ニ代テ「ふれつちや」「ば」もんど「まつしんが」等起リ次デ散文家ノ「せれみ」てゝる「詩學者ノ」じよんみるとん「譬喩ノ書ヲ作リタル」じよんばんやん「其他」りちや「とばつくすた」「愛ざつこうをるとん」アリ其他數多ノ戯曲者起リ其尤モ重ナルモノハ「じよん」とらいてん「ナリ」

◎十八世紀ニ於テ文學哲學ノ發達如何

英國ニ於テハ千八百年代上半世紀ニ於テ人情ヲ評シ盡シ讀者ヲシテ頤ヲ解カシムル即チ滑稽ニ有名ナル「ばうぶ」或ハ「すいふと」又哲學ノ道理ヲ能ク平人ノ腦髓ニ注入スル即チ諷刺ニハ「あちとん」又ハ「すち」る「稗史ニハ」でふとう「等ナリ下半世紀ニハ博學ナル」さみゆる、じよんそん「ヲ始メトシ」りちや「とそん」ふひいるぢんぐ「須もうれつと」ハ近代ノ小説ノ模範ヲ作リ「とんぶそん」「ぐれい」「ご」るどすみす「かうはあ」「馬るんす」詩學ノ進歩ヲ助ケ能辨ナル「馬るく」アリ「ひゆうむ」「ろばるとそん」「ぎつ

ぼん「史筆ヲ以テ名アリ」あたむすみす「富國論モ此際ニ出デタリ次ニ佛國ニ於テ學派中最モ有名ナルモノハ」慕るで「や」「ろそう」「もんですきゆう」「こんどるせい」「だれんば」等トナス皆自由平等ノ說ヲ唱へ又日耳曼ニテハ「れつしんぐ」「維んけるまん」「くろつぷすとつく」等起リ佛國過激主義ヲ舐排シ次イデ「西るれる」「ぎひて」詩歌ヲ以テ日耳曼文學ノ品位ヲ高フシ哲學ノ思想モ盛ンニ「かんど」「ふひひて」「へいびる」「せりん、ぐ」出デ、高尚ナル形以上ノ學科ヲ講説セリ

◎十八世紀ノ理學ノ進歩如何

器械發明ノ術開ケ「はるぐれ」ぶ「あ」くらしいと「ノ紡績器械」か「とらいいと」ノ織機ヲ作ル「るり、ほいつとねい」ノ彈綿機ヲ制スル殊ニ彼「せ」むす、わつと「ノ蒸氣機關ヲ創造スル等又「ぶらつく」「かべんじつしゆ」「すきふ」る」せるふをると「等炭酸水素酸素窒素等ヲ發見シ化學ノ組織ヲ改メ「ふらんくりん」がるばに」ハ電氣ノ試験ヲナシ「ふあ」れんへ「と」ノ寒暖計「らんげれんじ」へるしゑる「等ノ天文學」きゆ「ひ」る「ノ動物學」はつとん「ノ地質學」りんにゆす「ノ植物學等ノ非常ノ進歩ヲナセリ」



◎伊太利再興ノ原因

伊太利ハ元ト久シク奧國ノ支配ヲ受ケシガ人民其羈絆ヲ脱シ全島ヲ合同シ一國ト爲サントノ念熾シナリシカ千八百四十八年佛國革命及ヒ日耳曼變動ハ大ニ伊太利人ニ影響ヲ與ヘ人ノ激動日一日ヨリ甚ダシ「サーヒにや」「國王」うねくどるねまにゆる「人民ノ憤慨報國ニ感シ親ラ之ガ首領トナリシナリ

◎希臘國自由戰爭ノ起元及ヒ結果如何

希臘國ハ四百年間土耳其古ノ羈絆ヲ蒙リ頗ル壓制ヲ受ケ苟モ自由ヲ唱ヘ獨立ヲ圖ルモノハ嚴酷刑ヲ以テ罰セラレタリ是ニ於テ全國ノ人民愈々激シ千八百二十二年「ソビエラ」ニ大會議ヲ開キ土耳其ノ羈絆ヲ脱シ獨立自由ヲランヲ欲シ海陸共ニ兵ヲ起シ數年土耳其ト戰フ是ヲ自由戰爭ト云フ結果ハ是ニ於テ希臘群島ヲ合セテ一トナシ新ニ希臘獨立國ヲ創立ス

◎十六世紀ハ何ヲ以テ充タサレルカ

第十六世紀ハ宗教改革ノ亂ヲ以テ充サレテアリ

◎十七世紀ノ大部ヲ問フ

有名ナル三十年戰爭ヲ以テシ佛國ノ君王政体ヲ固クナセシ又日耳曼ニ反抗セシ和蘭瑞西ハ獨立ヲ公認セラレ英國ノ地方第一ノ強國ニナリシ等ノ實蹟ヲ以テ之ヲ充ス

◎十八世紀ハ如何

近世史中最モ注意スベキ時期ナリ而シテ之ヲ充スモノハ日耳曼勢ヲ落シ「ぶらんでるばるく」及普魯西二國ヲ合シ普魯西國ヲ組織シ歐洲中一ノ強國トナル米國ハ固英國ノ殖民地ナリシガ遂ニ獨立國トナル佛國ニテハ「なばれをん」帝位ニ登リ遂ニ「せんとへれな」島ニ竄流セラレシ事蹟又此世紀デ文學技藝大ニ進歩シ紡績機械蒸氣機關ノ發明アリテ世界ノ面目ヲ一新セシ等ヲ以テ充ス

◎十九世紀ハ如何

此世紀ハ普國大ニ國勢ヲ増加シ日耳曼聯邦ノ首位ヲ占メタル「なばれをん」三世ノ時普佛戰爭伊太利ノ革命英國ノ南北戰爭等是レヲノ事蹟ヲ以テ充ス

◎歐羅巴現今ノ共和政治國ヲ列記セヨ



佛蘭西及瑞西

●現今世界ニ於ケル共和政治國ヲ舉ケヨ  
佛蘭西瑞士西班牙米合衆國墨西哥智利

●現今世界ニ於ケル君民同治ノ國ヲ舉ケヨ

英吉利普魯西伊太利瑞典噠馬比利時荷葡萄牙希臘伯爾西

●現今世界ニ於ケル君主專治ノ國ヲ舉ケヨ  
魯西亞土耳其埃及比耳西亞

附 錄

英國王位繼承令及ヒ權利法典

第一條 第一、國會ノ許可ヲ經ズシテ國法ヲ廢弛シ又ハ之ヲ施行スル等ノ所爲ハ皆違法ナリトス

第二、近時曾テ施行セシ所ノ暫時國ヲ停止スルハ違法ナリ

第三、近來創置セル宗教僧侶全國ノ裁判所並ニ之ニ類似セル者ハ皆違法ナリ

第四、國會ニ於テ許シタルノ外ニ帝王ノ特權ト稱シ妄リニ租稅ヲ徵收スルハ違法ナリ  
「維りやむ」陛下及ヒ女王名りの一陛下ヲ以テ英國「威いるす」「愛るらんぞ」等ノ國王若シクハ君ト爲シ自餘英國附屬ノ國ハ悉ク之ニ屬シ王位ハ兩陛下ノ在世中ハ兩陛下下之ヲ維持シ若シ何レニテモ早世スレバ生存セル所ノ長命ノ者之ヲ維持スベシ王權ヲ使用シ政事ヲ施行スルハ專ラ「ういりやむ」陛下ニ屬ス但シ兩王在世中ハ兩王ノ名ヲ以テ政令ヲ布クベシ

凡近來國王ノ特命ヲ以テ國法條約書暫時廢止スル如キ無法ノ王權ハ今ヨリ亦存ズベカラザルモノトス但シ特ニ今王陛下在世中定ムル所ノ條約書ニ記載スル箇條ハ此限りニ非ス

第五、凡ソ人民ハ國王ニ訴願スルノ權利アリ故ニ國王ニ直訴シタルヲ以テ之ヲ禁固スルハ違法ナリ

第六、國會ノ許可ヲ經ズシテ太平ノ時ニ常備兵ヲ置クハ國法ニ反スルモノナリ



第七、凡ソ「ふるてすたんど」教ノ臣民ハ各々身分相應ノ兵器ヲ以テ自ラ護ルノ權利アリ是國法ナリ

第八、國會ノミ獨リ有スル所ノ事件ヲ濫リニ刑事裁判所ニ於テ處斷シ且ツ恣ニ隨意ノ法律ヲ用ユルハ違法ナリ

第九、近時ノ陪審官ハ往々姦惡不正ノ人ヲ以テ之ニ任シ就中國事犯人ヲ審問スルニ當リ領地ナキ者ヲ以テ陪審官ト爲スニトアリ是レ國法ニ悖ルモノナリ

第十、犯罪ヲ以テ繫獄セラレタル者ノ保釋ノ爲メニ不法ノ大金ヲ要スルコトアリ是人民ノ自由ヲ保護センガ爲ニ設ケタル法ヲ以テ全ク無効ニ屬セシムルモノナリ

第十一、不法ノ保釋金ヲ追取シ且不法暴逆ノ刑ヲ行フハ最モ違法ノ甚タシキモノナリ  
 第二條 前條ニ云フ所ノ權利ヲ確定センガ爲メ貴族僧侶及人民ノ代議士ハ「維すとみにすたー」ノ議院ニ會同シ評決スルコト左ノ如シ

両王崩後ハ此王位ヲ女王分娩ノ子孫ニ傳フヘシ若シ子孫ナキハ「噀まるく」王ノ「妃亞ん」及ヒ其分娩ノ子孫ニ傳フヘシ

若シ「亞ん」子孫ナキハ「維りやむ」陛下ノ子孫ニ傳フヘシ茲ニ貴族人民王及ヒ兩陛下ノ許諾アランコトヲ請願ス

第三條 凡從來忠義服從ノ誓詞ヲ爲ス者ハ悉ク誓約ヲ爲ス可シ而シテ古例ノ忠義服從ノ誓詞ハ悉ク之レヲ廢スヘシ其後爲スヘキ誓詞ハ左ノ如シ

王「維りやむ」女王「りい」兩陛下ニ對シ何某忠誠無二ノ義務ヲ盡サンコトヲ誓ヒ之ヲ真正ニ契約ス冀クハ神明ノ我ヲ監保センコトヲ

世上ニ云所ノ羅馬法王ノ權利ヲ以テ帝王ヲ教法上ニ於テ放逐シ又ハ之ヲ廢立シ又ハ臣屬ヲシテ之ヲ弑セシムル等ノ宗旨ハ何某之ヲ邪宗異端トシ憎惡厭忌シテ之ヲ絶ツヘシ我今誓言ス凡外國帝王又ハ僧侶等ハ此王國內ニ於テ宗教裁判ノ權利及ヒ其餘ノ權利威福等ヲ有スルコトアルヘカテズ冀クハ神ノ我ヲ監保センコトヲ

第四條 貴族僧侶並ニ人民ハ實ニ國會ノ兩局タリ而シテ兩陛下之ヲ以テ直チニ國會ヲ會同シ以テ將來國教法及ヒ自由權利等ヲ維持セラレンコトヲ望ム

第五條 凡ソ宰相百官ハ將來子孫萬世ニ至ルマテ必ズ此法律ニ由リテ以テ時ノ國王ヲ補



佐セザルヘカラス

九十八

第六條 此條ハ惟タ第一第二兩條ヲ國會ニ於テ古例ノ文体改メ永世ノ國法トナシタルモノナリ故ニ之ヲ畧ス

第七條 (同上)

第八條 抑モ此ノ「ぶろてすたんど」王國ヲ治ムルガ爲メ羅馬教ノ帝王又ハ同宗ノ女王等ヲ以テスルハ國ノ安穩ニ害アルトテ經驗セリ故ニ今永世ノ國法ヲ定メテ貴族僧侶並ニ人民等ハ將來凡ソ羅馬教ヲ信スル人又ハ羅馬法王ト通信スル人又ハ羅馬教ノ人ト婚姻シタル人等ハ決シテ此王位ヲ繼承スル能ハサルモノト爲サント欲ス而シテ若シ羅馬教ノ人王位ニ即ク時ハ一般人民即日其君臣ノ義務ヲ絶シ王位ハ其次ナル宗教ノ王孫ニ屬シテ王位ニ登リタル羅馬教ノ人ハ已ニ死シタルモノト見做スヘシ

第九條 凡此國ノ王及ヒ女王始テ位ヲ踐ミタルハ最初ノ國會ニ於テ貴族院ニ在ル王座ニ着シ貴族士民ヲ召集シ其群集ノ前ニ於テ查祿斯二世十三年ニ定メタル條約書ニ記スル所ノ誓詞ヲ朗讀且別紙ニ誓詞ヲ書シ名ヲ録スヘシ但シ踐祚ノ後未ダ國會ヲ會同セ

ル以前ニ即位ノ禮式ヲ行フハ右ノ誓詞ヲ即位誓詞ト共ニ爲スヘシ若シ王及女王始メテ踐祚ノ時其歲十二才未滿ナラバ其滿十二才後始メテ國會ニテ若シクハ即位禮式ノ時ニ於テ前文ノ如ク誓詞ヲ爲スヘシ

「維リヤ」三世臣民ノ自由權利ヲ承認シ王位ノ正統ヲ確定スル憲章

紀元千六百八十八年二月十三日全國ノ貴族僧侶人民ノ代議士等「維すとみふすた」ノ議院ニ集會シ嘗テ編纂スル所ノ法典ヲ「ういりやむ」王並ニ女王名「りい」兩陛下ニ稟呈ス抑モ先王「せーむす」二世許多ノ姦惡ナル參議審判官及ヒ宰相等ノ輔佐ヲ以テ殆ンド將サニ此王國ノ國教並ニ法律ヲ壞亂セントス其箇條ハ左ノ如シ

第一、國會ノ許可ヲ經スシテ國法ヲ廢弛シ又ハ暫時國法ヲ停止スル等ノ權ヲ濫用セリ

第二、此濫用ノ權利ニ服セル故ヲ以テ種々名望アル高僧ヲ獄ニ繋キ又ハ死刑ニ處シタ

リ

第三、宗旨僧侶全權ノ理事官ヲ派出シ妄リニ暴威ヲ振ヒタリ

第四、國會ニ於テ許可シタル外ニ帝王ノ權ト稱シ妄リニ租稅ヲ徵收シタリ

九十九



第五、平和ノ時ニ於テ國會ノ許可ヲ經ズシテ常備兵ヲ置キ且之ヲ諸方ニ屯住セシメ以テ國法ニ悖レリ

第六、國法ニ反シテ「ぶろてすたんど」教徒ノ兵卒ヲ退ケ羅馬教人ヲ漸次兵籍ニ編入セリ

第七、國會ノ代議士ヲ人民ヨリ自由ニ撰擧スルノ法ヲ破レリ右ノ條々ハ皆此王國ノ法律憲章ニ反スルモノナリ

第八、國會ニ出ズル所ノ代議士撰擧ハ人民ノ自由ニ委スヘシ

第九、凡國會ニ於ケル議論ハ忌諱ニ觸ル、ト雖モ國會外ニ於テ之ヲ糺彈ス可ラズ

第十、不法ノ保釋金ヲ取ル可カラズ不法ノ罰金ヲ取ル可ラズ暴虐慘毒ノ刑ヲ行フヘカラス

第十一、陪審官ハ公平ノ順次ヲ追テ出スヘシ國事犯人ヲ審糺スル時ハ必ス領地ヲ有スル帝ヲ以テ陪審官トナスヘシ

第十二、罪人ノ末々所斷セラレサル以前ニ其領此家財ヲ人ニ恩賜スルノ契約ハ違法ニ

テ其契約ハ無効ニ屬スヘシ

第十三、人民ノ疾苦ヲ救正シ國法ヲ維持シ又ハ之ヲ改正セン爲メニ屢々國會ヲ會同スヘシ

以上條々ハ英國臣民ノ固有スル自由權利ニシテ毫モ疑ヲ容レズ故ニ從來施政上司法上帝王ノ布令等凡ソ此條々ニ背ク者ハ將來ノ先例トナス可ラズ

凡外國人ハ假令我版籍ニ販入シタル者ト雖モ決シテ内閣議官ト爲ルヲ得ス兩院ノ議員ト爲ルヲ得ス親任ノ官職又海陸軍ノ將校士官タルヲ得ス亦土地ヲ所有スルヲ得ス

凡兩議員ニ於テ罪狀ヲ宣告セラレタル大臣ハ帝王恩赦ノ特典ニ與ルヲ得ス

凡審判官ハ一旦之ニ任セラレタルモノハ犯罪惡行等アルカ又ハ兩議院連署シテ之ヲ退ケント云ヒ出デタル者等ニ非ザレハ之ヲ免ズヘカラス且其俸祿ハ定額アリテ増減セザルヘシ

凡ソ王位ヲ繼グモノハ必ス英國國教ニ販入スヘシ

凡ソ王孫ノ外國ヨリ入リテ統ヲ繼グ者ニシテ英國王ニ屬セサル外國ノ土地ヲ保護セン



爲ニ英國ノ臣民ヲシテ外征セシメント欲セハ先ツ國會ノ許可ヲ得ヘシ然ラザレハ臣民  
 其命ニ從ハザルノ權利アルヘシ  
 凡ソ王位ヲ繼ク者國會ノ許可ヲ得スシハ海外ニ旅行スルヲ得ヘカラス(此一條數年ヲ繼ク今ハ削ル)  
 凡ソ此法典ヲ以テ定メタル王孫初メテ王位ヲ繼キシ日ヨリ以後ハ王國政事ノ萬機古來  
 內閣ニテ決議シタル文書一人其同意ノ議官悉ク捺印副署スヘシ  
 凡ソ高祿ノ官吏並ニ國王ヨリ養老金ヲ賜ルモノ等ハ下院ノ議員タルヲ得ズ  
 此役英人毫モ刃ニ觸ラスシテ易ク王者ヲ置キ且大ニ民人ノ權利自由ヲ擴張セリ此ヲ以  
 後人呼デ千六百八十八年ノ名譽革命ト云フ

萬國歷史問答附錄

◎泰西各國邦制ヲ問フ

- 英吉利……………百十七府
- 佛蘭西……………八十九洲

- 以太利……………十部
- 魯西亞……………八部
- 普魯士……………十五省
- 奧地利……………十五省
- 瑞典……………二十四部
- 噠馬……………六部
- 荷蘭……………十二省
- 白耳義……………九省
- 瑞西……………二十二縣
- 西班牙……………四十九省
- 葡萄牙……………六省
- 希臘……………十部
- 土耳其……………三十二部



- 埃及……………三部
- 米合衆國……………三十四部
- 墨西哥……………二十四部
- 智利……………十四部
- 伯路……………八部
- 波斯……………十一省

法教ノ異同及最盛ナル國名ヲ問フ

- ◎耶蘇教 歐羅巴ノ全土概テ此ノ宗教ニシテ東洋ニモ亦傳播セリ而シテコノ教ニ一アリ一チ耶蘇舊教ト云ヒ二チ耶蘇新教ト云フ前者ハ歐洲ノ南部ニ盛ンニシテ又南亞米利加ノ人民大半之ヲ信奉セリ後者ハ英國及日耳曼列國北亞米利加荷蘭並ニ瑞西ニ最モ盛ンナリ新舊兩教トモニ數多ノ宗派ニ分カレリ
- ◎希臘教 魯西亞最モ盛ンニシテ希臘土耳其ノ人民屬スルモノ甚タ多シトス
- ◎猶太教 往時ユノ教ハ猶太國ニ行ハレシモ國亡ヒソノ人民歐羅巴亞米利加ノ二洲ニ

ニ散在シ今ニ至ルモ尙ホ此教ヲ崇奉セリ

- 回教 土耳其亞拉比亞波斯等ハ一般ニユノ教徒ニシテ亞細亞ノ西部ヨリ内地ニ傳延シ
- 印度諸嶋ニ行ハレ亞弗利加ノ東北埃及メヒヤ等ニ盛ンナリ
- 婆羅門教 佛教ヨリ先ツト甚ク遠ク印度ニ盛ンナリ
- 佛教 印度ノ錫蘭嶋及後印度支那蒙古滿洲西比利亞等及我日本國ニモ盛ンニ行ハル宗派ノ別カタル幾何ナルヲ知ラス
- 儒教 支那及滿洲ニ盛ンニシテ我日本國ニ來ル頗ル久シ矣

◎曆ノ種類及其元トナス所ヲ舉ケヨ

- 泰西曆即チ太陽曆トモ云ヒ耶蘇基督ノ降生ヲ以テ元トス
- 回曆 まはめつとノ本國ヲ奔出セシノ年ヲ以テ元トス
- 波斯曆 さくそに一王朝ノ末王やてしはる即位ノ年ヲ以テ元トス
- 猶太曆 世界開闢ヲ以テ元トス
- 暹羅曆 暹羅ノ蒙傑ふエくるノ時ヲ元トナス



印度曆 釋尊ノ

支那曆 即チ大陰曆ニシテ黃帝ノ六十一年甲子ヲ以テ元トス

日本曆 神武天皇即位シ給ヒシ年ヲ以テ元トス

◎言語ノ區類ヲ示セ

亞細亞洲ニハ百五十三種アリ亞弗利加洲ニハ百十四種アリ埃地利ニハ百十七種アリ歐羅巴洲ニハ五十三種ニシテ南北亞米利加洲ニハ四百二十三種アリトス然リ而シテ大古ノ言語ハ其種類甚タ多カリシモ現今見得ヘキモノハ印度ノ梵語及希臘ノ希臘語及羅馬ノラチン語ノ三ノミ

◎世界有名ノ高塔ヲ舉ケヨ

- エツフヘル塔……………佛國……………九百九十尺余
- ワシントン碑……………米國……………五百六十尺余
- コロロン塔……………魯國……………五百五十九尺余
- ピラミッド塔……………埃及……………四百八十尺余

セントポール塔……………埃國……………四百五十九尺余

自由ノ大像……………米國……………二百二十尺余

チルソン碑……………英國……………百六十五尺

セントピーター塔……………伊國……………四百三十尺余



必受  
挑檢  
万国歴史問答 大尾

全 明治廿五年一月五日印刷  
年一月十日出版

著 者 尾 關 春 三

福岡縣筑後國久留米市田町  
三十八番地

發 行 者 河 合 卯 之 助

京都市上京區寺町通二條下ル  
妙滿寺前町十番戶

印 刷 者 柳 瀬 岩 三

京都市東洞院通上珠敷屋町  
上ル十九番戶

有 所 權 版



各府縣賣捌所

東京日本橋通一丁目	大倉孫兵衛	名古屋本町	片野東四郎
全 大傳馬町	全	全	梶田勘助
全 神田表神保町	中西屋書店	全	小澤吉兵衛
全 神田區裏神保町	全	全	若山大成堂
全 神田區今小路	三刺源次	全	淺見文昌堂
全 神田區小川町	全	全	大橋甚吾
全 神田區表神保町	日進堂	全	中田清兵衛
全 神田區一ノ橋通町	開新堂	全	雲根堂
全	有斐閣	全	池善平
大坂備後町四丁目	富山房	全	岡崎與兵衛
全	梅原龜七	全	岡崎庄喜助
全	吉岡平助	全	品川爲吉
全 北久太郎町四丁目	柳原喜兵衛	全	川島九右衛門
全 南久室寺町四丁目	前川善兵衛	全	川岡清助
全 安堂寺町四丁目	青木嵩山堂	全	武内彌之助
全 安土町四丁目	積善館	全	積善館支店
全 本町四丁目	岡島眞七	全	坂井萬吉
全 北久太郎町四丁目	岡本仙助	全	長崎次郎
土州高嶺	懷平堂	全	吉田幸兵衛
土州前橋	懷平堂	全	中井正吉
江州大津	古川伊助	全	

三宅秋山校閱

第四讀本直譯講解

全三冊

正價金四拾錢  
郵税金八錢

河田清洋君譯述

第五讀本直譯講義

全四冊

正價金貳拾錢  
郵税金貳錢

高等官立中學校師範學校  
特別認可學校其他諸學校  
受驗用  
參考書

日本地理問答

尾關春三著

全一冊

正價金拾五錢  
郵税金四錢

高等官立中學校師範學校  
特別認可學校其他諸學校  
受驗用  
參考書

萬國地理問答

中司正朔著

全一冊

正價金拾五錢  
郵税金四錢

高等官立中學校師範學校  
特別認可學校其他諸學校  
受驗用  
參考書

地理學問答

中司正朔著

全一冊

正價金拾五錢  
郵税金四錢

高等官立中學校師範學校  
特別認可學校其他諸學校  
受驗用  
參考書

化學問答

中司正朔著

全一冊

正價金拾五錢  
郵税金四錢

中司正朔編纂

動物學問答

中司正朔著

全一冊

正價金拾五錢  
郵税金四錢



各府縣賣捌所

東京日本橋通二丁目	大倉孫兵衛	名古屋本町	片野東四郎
全 大塚馬町	全 松屋書店	全 全	梶田勤助
全 神田表神保町	全 中西屋書店	全 全	小澤吉兵衛
全 神田區裏神保町	全 三刺源次	全 全	若山大成堂
全 神田區今小路	全 金刺源次	全 全	淺見文昌堂
全 神田區小川町	全 日進堂	全 全	大橋甚吾
全 神田區表神保町	全 關新堂	全 全	中田清兵衛
全 神田區一橋通町	全 有斐閣	全 全	雲根堂
全 大坂備後町四丁目	全 梅原龜七	全 全	池善平
全 全	全 吉岡平助	全 全	岡崎與兵衛
全 北久太郎町四丁目	全 柳原善兵衛	全 全	岡崎庄喜助
全 南久堂寺町四丁目	全 前川善兵衛	全 全	品川為吉
全 安堂寺町四丁目	全 前川善兵衛	全 全	川島九右衛門
全 安土町四丁目	全 榎本善兵衛	全 全	川内彌之助
全 本町四丁目	全 榎本善兵衛	全 全	武内彌之助
全 北久太郎町四丁目	全 岡島真七	全 全	積善館支店
全 全	全 岡本仙助	全 全	長井萬吉
全 土州高崎	全 榎平堂	全 全	長崎次郎
全 土州前橋	全 榎平堂	全 全	吉田幸兵衛
全 江州大津	全 古川伊助	全 全	中井正吉

三宅荻山校閱 小林巖溪譯述

訂正ニシヨナル 第四讀本直譯講解 全二冊 正價金四拾錢 郵税金八錢

ニシヨナル 第五讀本直譯講義 全四冊 一冊定價金貳拾錢 郵税金貳錢

高等尋常中學校師範學校 受驗用 尾關春三著 全一冊 正價金拾五錢 郵税金四錢

特別認可學校其他諸學校 參考書 全一冊 正價金拾五錢 郵税金四錢

必携 日本地理問答 中司正朔著 全一冊 正價金拾五錢 郵税金四錢

高等尋常中學校師範學校 受驗用 中司正朔著 全一冊 正價金十五錢 郵税金四錢

特別認可學校其他諸學校 參考書 中司正朔著 全一冊 正價金拾五錢 郵税金四錢

必携 萬國地理問答 中司正朔著 全一冊 正價金拾五錢 郵税金四錢

高等尋常中學校師範學校 受驗用 中司正朔著 全一冊 正價金拾五錢 郵税金四錢

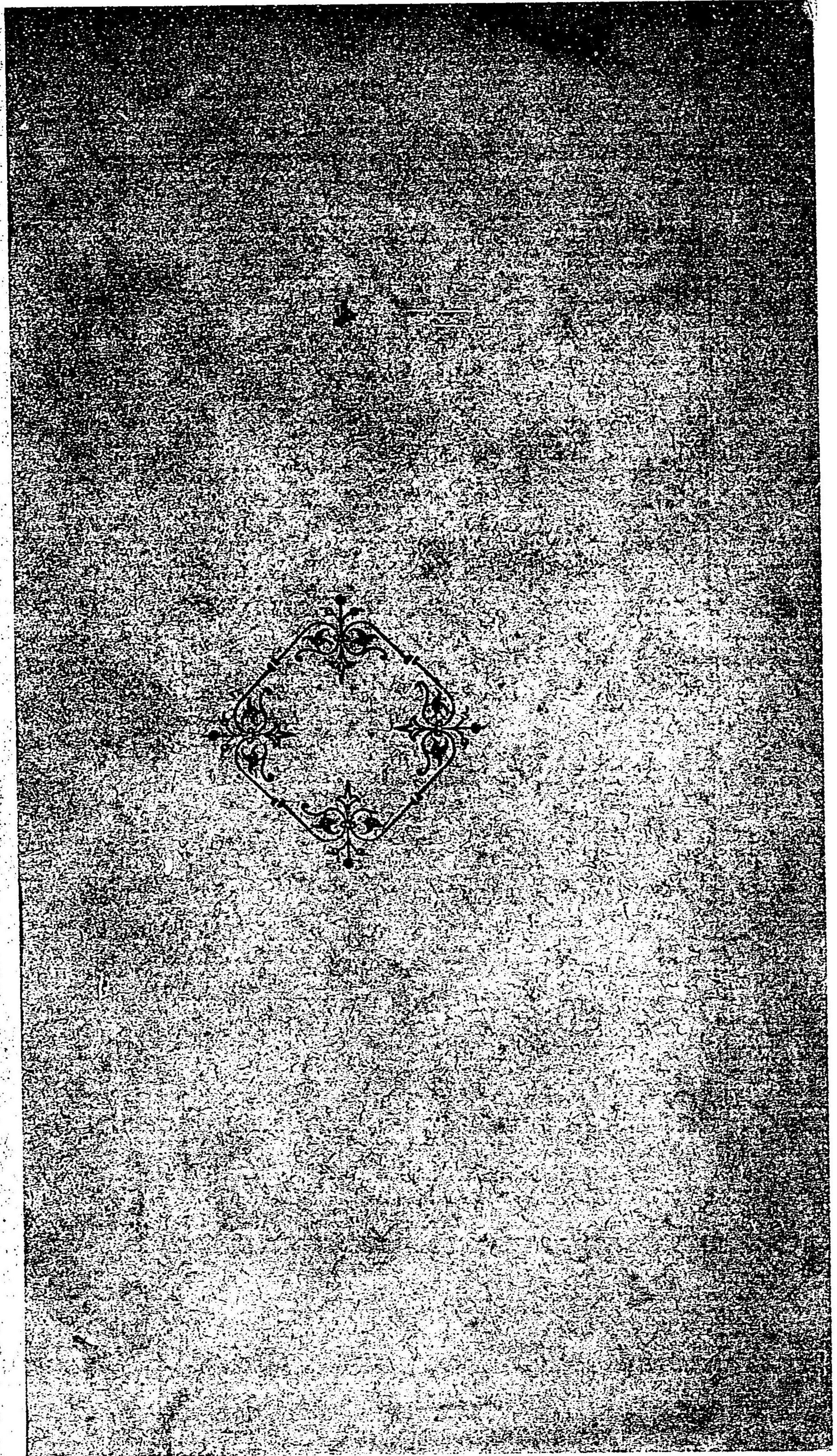
特別認可學校其他諸學校 參考書 中司正朔著 全一冊 正價金拾五錢 郵税金四錢

必携 化學問答 中司正朔著 全一冊 正價金拾五錢 郵税金四錢

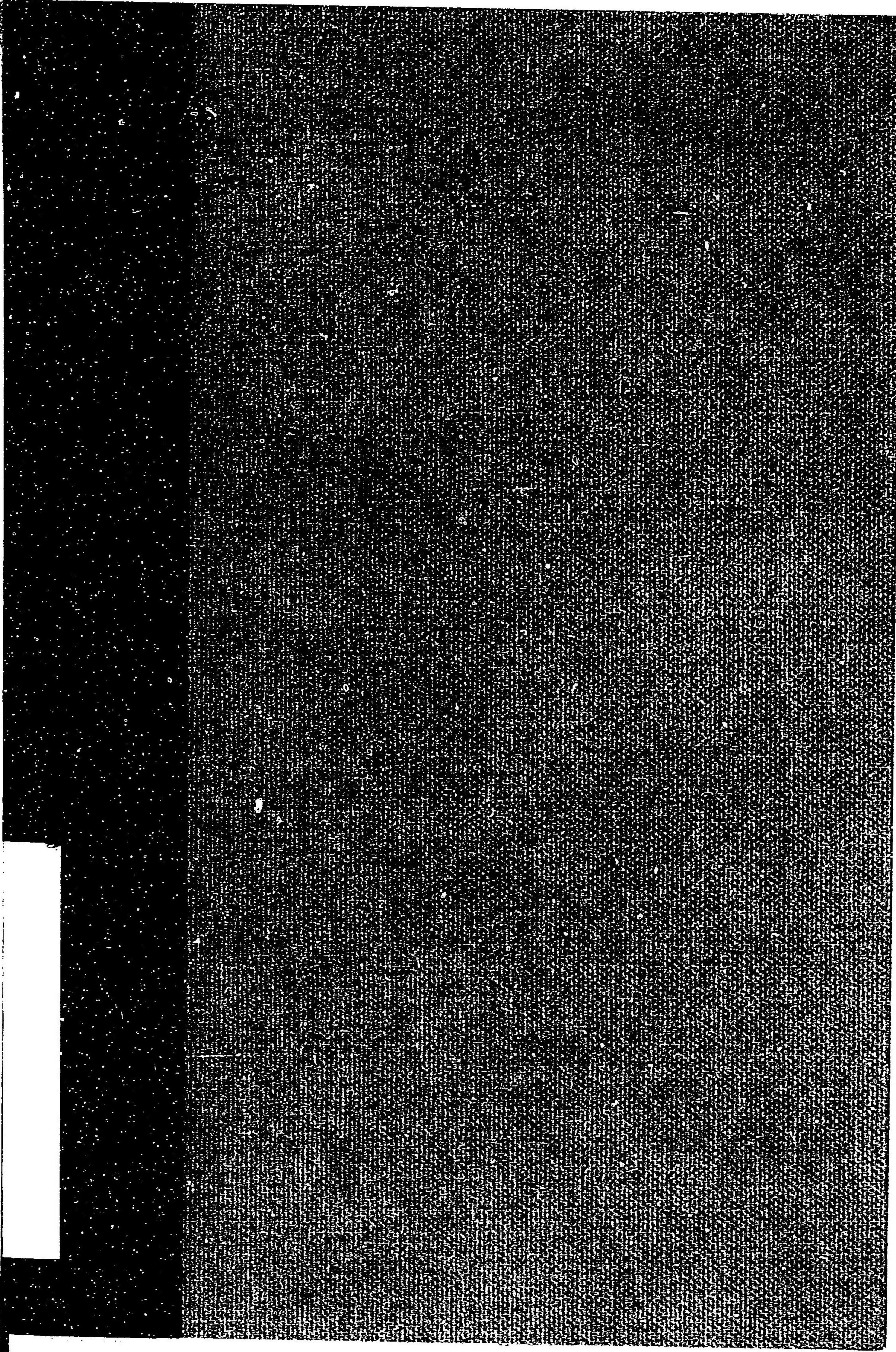
受驗 動物學 中司正朔編纂 全一冊 正價金拾五錢 郵税金四錢

新撰 動物學 中司正朔編纂 全一冊 正價金拾五錢 郵税金四錢











特20

154

受  
験  
必  
携  
万国歴史問答

国立国会図書館

049659-000-1

特20-154

万国歴史問答(受験必携)

尾関 学軒/編

M25

BEM-0362

